

Ⅷ ニュース報道にまつわる諸問題について

日吉 昭彦

1 はじめに

本章では、分析対象期間（第Ⅲ章を参照のこと）において報道されたニュースを事例として取り上げて、その報道の仕方を検証するとともに、番組ごとの報道の仕方の違いについて報告する。

分析対象としたニュースは、主に、(1)東京五輪に関連するスキャンダルや社会問題に関するニュース、(2)新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）に感染した選手に関するニュース、(3)メダル獲得に関するニュース、(4)五輪と関連する国際関係に関するニュース、(5)東京五輪の理念やコンセプトと関連するニュース、の5点である。それぞれ定量的な分析ではなく、質的分析となり、あくまで事例研究である。

取り上げるニュースは、分析対象期間中に3回以上、複数の番組で取り上げられたニュースとし、上記(1)から(5)のテーマに合致したニュースを筆者が報道量や話題性などをふまえて独自に選定したものである。

(1)では、「小山田圭吾氏の開会式作曲担当辞任に関するニュース」「小林賢太郎氏の開会式演出担当解任に関するニュース」「河村たかし名古屋市長がメダルを噛んだニュース」を事例とした。

(2)は、感染した選手に関するニュース全てを対象として分析を行った。

(3)では、「卓球混合ダブルスの金メダル獲得に関するニュース」「沖縄出身者の個人競技でのメダル初獲得に関するニュース」を事例としているが、さらにメダル獲得関連のニュースを対象に番組間での重複化についても分析を行った。

(4)は、「韓国のムン・ジェイン大統領が開会式の出席を見送ったニュース」「ウガンダ出身選手の失踪に関するニュース」「ベラルーシ選手が亡命を希望したニュース」「海外メディアが東京五輪をどのように伝えているか、というテーマで報道したニュース」を事例とした。

(5)は、「復興五輪」「池江璃花子選手」「大坂なおみ選手」に関するニュースを事例に挙げたが、それぞれは東京五輪の理念やコンセプトを示す出来事やそれを体現する選手であることは言を俟たないであろう。

分析の方法であるが、まず、事例のニュースと関連するキーワードを、コーディングシート（第Ⅲ章を参照のこと）を用いて検索し、「タイトルテロップ」および「サブタイ

トルテロップ」に当該キーワードが含まれているニュースを抽出した¹⁾。番組ごとにニュースを抽出した後に、番組内放送順位やニュース時間、タイトルテロップ、サブタイトルテロップを表にして整理した。その上で、抽出したニュース映像を視聴し、コーディングシートには含まれていない報道の詳細について質的に分析を行った。

2 東京五輪に関連するスキャンダルや社会問題のニュースについて

第II章で示したように、東京五輪開催までの道のりにおいては、東京都知事の相次ぐ辞任劇からハラスメント問題までさまざまなスキャンダルが報道されていた（図表II-8参照）。東京五輪をめぐる出来事は、基本的には五輪というメガスポーツ・イベントの実施過程でのスポーツに関する事象であるわけだが、同時に格好の社会ニュースの題材をも提供していた。

第V章で示されているように、「300 社会」を分野とするニュースは、過去の3大会と比べると、やや多くなっている傾向にある。一方、開催国に関するネガティブなニュースは、これまで五輪開催の祝祭的な雰囲気の記事のなかで、ポジティブに書き換えられていく（中ほか2023）ことを本研究会ではデータで示してきた。本プロジェクトでは、東京五輪開催の3日前からの夜のニュース番組を分析対象としているが、この期間はどうかであっただろうか。まずは、五輪開催直前の2つの開会式と関連するスキャンダルに関するニュースの放映の仕方を見てみたい。さらに、競技開始後の時期の社会問題に関するニュースを分析する。

2.1 小山田圭吾氏の開会式作曲担当辞任に関するニュース

2.1.1 出来事の概要

この出来事は、開会式で用いられるBGMの作曲担当であった音楽家の小山田圭吾氏が、過去のインタビューにおいて、いじめを自慢するかのような発言をしており、それが音楽雑誌に掲載されていたことが批判され、2021年7月19日（月）に音楽担当を辞任したことである。

いじめを自慢するかのようなインタビュー記事については、同氏が楽曲を提供するNHKの番組に2011年頃に寄せられた批判の声などがあり、既に知られたことであった。組織委が開閉会式の開式に先立って、担当者等の発表を2021年7月14日（水）に行うと、インタビュー記事に関連する批判が改めて広がっていったのだが、小山田氏がツイッターやホームページのみで謝罪したことや、東京2020大会組織委員会（以下、組織委）が担当の継続を表明していたことなどから、批判はさらに広まっていった。いわゆるネット上の「炎上」であった。

こうしたなか組織委は、2021年7月19日（月）に担当の辞任を発表した。本研究の分析対象期間は2021年7月19日（月）から8月12日（木）までとなっており、ここで分析するのは、この日に発表された辞任発表に関するニュースのみである。

2.1.2 報道の比較

開会式の音楽担当の辞任が発表された 2021 年 7 月 19 日（月）には、「ニュース 7」以外のすべての番組がこの出来事を報じている。これに関連するニュースにおいて、辞任については、当日の 19 時過ぎに本人が Twitter で発表、組織委の対応は同日 22 時頃にオンラインで行われた、と伝えられており、出来事が起きた時間の都合から「ニュース 7」は、7 月 19 日（月）にはこの出来事を扱っていなかった。

番組内放送順位は「zero」が 1 位、「23」「報ステ」が 2 位、「α」が 7 位であった。「23」「報ステ」は、ニュースのオープニングが番組内放送順位 1 位であるので、実際には番組での最初のニュースであり、この出来事は、この日の重要ニュースであったことが分かる。なお、「α」は、選手の選手村入村やハンドボール、野球、バレーの競技や選手の動向に関するニュースの後に、この出来事を報じている。

ニュース時間は、「報ステ」が最も長く 513 秒、以下、「zero」が 285 秒、「23」が 190 秒、「α」が 70 秒となっている。

タイトルテロップの特徴であるが、出来事の事実関係を伝える部分以外では、「zero」が「なぜ?」「一転」のように疑問符を付けたほか、「23」が「開会式まで 4 日」と直前であることを強調した。また、「α」が「開会式の冒頭 4 分程度」と利用される予定だった音楽は短いことを付け加えた。また、「zero」と「報ステ」のタイトルテロップには「速報」が付いている。

サブタイトルテロップについては、「zero」がカッコ付きで「いじめ自慢」と出来事を要約し、「楽曲も使わず」と、辞任だけではなく曲も使われないことを示している。「23」は、いじめについては「告白」とした。「報ステ」は、ニュース時間が長く、サブタイトルテロップが 4 回代わり、「障害者への「いじめ」であったと詳細に伝えたほか、これまでの経緯や組織委が発表したことなどニュースソースについてもテロップに記載している。また、いじめをカッコ付けにし、辞任は「引責」であるとしている。また、「なぜ任命?」のように組織委の責任を問うている。「α」は、ニュース時間が短く、出来事の事実関係のみを簡潔に伝えており、サブタイトルテロップも同様であった。

このように、タイトルテロップとサブタイトルテロップからは、「zero」には小山田氏本人に対する批判的な報道姿勢が、「報ステ」には組織委の任命責任を問う姿勢が見える。

図表Ⅷ-1：小山田圭吾氏の開会式作曲担当辞任に関するニュースの比較

7月19日（月）

番組名	番組内 放送順位	ニュース 時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
1 ニュース7				
2 zero	1	285 (285)	速報 小山田圭吾氏なぜ? 一転「辞任」	1) 速報 急転「辞任」小山田氏“いじめ自慢”で 2) 速報 急転「辞任」小山田氏“楽曲”も使わず
3 23	2	190 (190)	五輪開会式まで4日 新着 小山田圭吾氏が辞任	1)いじめ告白 新着 開会式作曲の小山田氏辞任
4 α	7	70 (70)	開会式の冒頭4分程度 小山 田圭吾氏辞任楽曲は使用せず	1)小山田圭吾氏辞任楽曲は使用せず 開会式の冒頭4分程度
5 報ステ	2	513 (513)	速報 開会式の作曲担当 小山田氏が辞任	1)速報 小山田圭吾氏が辞任 開会式・作曲担当 障害者への「いじめ」で引責 2)速報 内外で批判やまず 小山田氏が辞任 障害者への「いじめ」で引責 3)速報 五輪組織委 小山田氏の辞任発表 障害者への「いじめ」で引責 4)速報 なぜ任命?問われる組織委の責任 障害者への「いじめ」で引責

※「ニュース時間」の表記については脚注を参考²⁾

2.1.3 番組によって異なる論評の仕方

一方、ニュース映像を確認すると、「zero」は、冒頭でキャスターが「開会式の4日前、突然の発表」「続投という判断がなぜ一転辞任となったのか」と述べており、タイトルテロップにある疑問符は、「続投という判断」への疑問、つまり組織委の対応への疑問であることが分かる。

ただし、「zero」では、この出来事への論評はほとんど行っておらず、(1)ホームページに掲載された本人の謝罪の言葉の紹介、(2)組織委の辞任への対応とコメント（“辞任の申し出があったこと”、“行為は断じて許されるものではないと考えること”、“お詫び”³⁾、(3)出来事の実事関係、(4)これまでの経緯、が伝えられている。報道に際して紹介したのは、海外メディアの報道の仕方、イギリス「ガーディアン紙」（“五輪憲章の価値観を守るのに日本が苦心している”）と、シンガポール「ストレーツタイムズ」（“人事で頭痛の種”）であった。

一方、「報ステ」は、冒頭から「開会式の4日前とは思えない事態」「直前の直前で異例の事態」「混乱は避けられそうにない」とキャスターが出来事を批判的に論評している。ニュースの終わりにも「いじめというより犯罪に近い」「組織委はなぜ対応ができなかったのか」とキャスターが述べており、極めて強い論調で、小山田氏本人および組織委の対応を批判している。また、「報ステ」は、主要なニュースではコメンテーター（この日は共同通信編集委員の太田昌克氏）がコメントをするのが通常であるが、図表Ⅷ-2のように、やはり小山田氏および組織委に対して強い調子で論評のコメントがなされた。なお、その際には、背景の映像で組織委の橋本会長の写真が映し出されていた。

図表Ⅷ-2：共同通信編集委員の太田昌克氏のコメント

「ものすごい嫌悪感」
「問われているのは組織委の認識と責任」
「露骨な差別意識と陰湿ないじめを赤裸々に語った記事は大問題」
「組織委がなんの確認もしないまま、こんな重要ポストに就任させたのか」
「(組織委の) 武藤事務局長は週末の会見で擁護していた」
「組織委の認識はあまりに甘く、国際常識からもずれている」
「組織委は日本国民と世界に重大な説明責任を負っている」

「報ステ」は、1本あたりのニュース時間が長く、出来事の実事関係やこれまでの経緯についても詳しく報じる傾向にある。過去の小山田氏の人気ぶりや本人の過去の所属バンドの楽曲も流れた。また、掲載された過去の発言については、紙面を映像で写しながら、2つの雑誌が紹介されており、その雑誌の当時のインタビュアーや出版社社長がホームページで発表した謝罪文も紹介された。さらに、加藤勝信官房長官（当時）のコメント（“全く許されるものではない”、“組織委で適切に対応していただきたい”）や、海外メディアの報道（イギリス・テレグラフ紙が「猛烈に批判」していることや、NBCが出来事を報じたこと）、知的障がい者の権利擁護を行う団体（全国手をつなぐ育成連合会）の常務理事（“過去を少し調べれば今回のことはすぐ分かる”、“起用した理由は非常に疑問”）、都庁幹部の声（“曲の準備が間に合うのか”、“内容は許されることではない”、“五輪憲章にも合わない”）、組織委幹部の声（“チームでやっているので残りのメンバーでやっていくしかない”）など、本人の問題から開会式の運営まで幅広く、関連の声を伝えている。

また、丸川五輪担当大臣を取材し、取材時の記者の問いかけ（“辞任した”、“今後の対応は”）に、無言であいさつして、自動車に乗り込む映像が流れている。コメンテーターの背景の橋本会長の写真も象徴的であり、こうしたニュース映像から、「報ステ」がやはりテロップどおり、主催者側の責任を問う姿勢が強く示されたニュースであったといえるだろう。

「23」であるが、ニュースの冒頭でキャスターが「いじめに関する問題がひどすぎると問題になっていた(傍点著者)」「開幕直前、やまない批判で辞任」と強調しているほか、短い時間ではあるが、具体的ないじめについての説明もあった。このようなこれまでの経緯に加えて、組織委の関係資料などを映像化しながら出来事を伝えた。また、他の番組ではみられていない市民の声を取材している。2名の女性が「残念」「なんで今？」とコメントしたほか、学生風の男性がいじめ批判にくわえ、「当事者の方々があらかじめ

手を打てたんじゃないかと」とコメントするなど、市民の声の取材を通じて組織委を間接的に批判しているようにも見える。

「α」は、ニュース時間が短く、出来事の実事関係のみを簡潔に伝えている点は、テロップと同様であった。

なお図表にはないが、「ニュース7」は、翌日7月20日（火）のニュースで、番組内放送順位2位の「五輪 あすから競技スタート 大会関係者 新たに9人陽性」というタイトルテロップのニュースの中で、この出来事を取り上げた。643秒ある長いニュースで、9つあるサブタイトルテロップでさまざまな出来事を取り上げるなか、9番目に取り上げている。19日に辞任したことについて短く触れ、丸川五輪担当大臣の記者会見の発言の模様（“政府として共生社会の実現に向けた取り組みを進めているおり許されない行為”、“大会の精神を共有できるよう努める”）のみを伝えている。

このように番組によって、出来事への論評の仕方は異なっている。主な違いは、「報ステ」がコメンテーターによる直接的な論評を行っているのに対し、「23」「Zero」が海外メディアや市民の声をを用いて間接的な論評を行っている点であろう。

2.2 小林賢太郎氏の開会式演出担当解任に関するニュース

2.2.1 出来事の概要

この出来事は、開閉会式でショー・ディレクターとして演出を担当する予定であった元コメディアン・劇作家・演出家の小林賢太郎氏が、過去のコントでナチスドイツによるユダヤ人虐殺を揶揄するようなセリフを用いていたとして、2021年7月22日（木）に組織委から担当を解任された出来事である。アメリカのユダヤ系人権団体がウェブサイト上で抗議するなどしており、ネット上で批判の声が強まっていた。

2.2.2 報道の比較

この出来事を伝えたのは、「ニュース7」「23」「α」「報ステ」の4番組である。7月22日（木）は「zero」は放送がなかった。「23」には、2本のニュースがあるが、2本目は、出来事を伝えるというより、元コメディアンである小林賢太郎氏の以前のコンビの人物からコメントがあったことを主に伝えており、別のニュースと考えてよいだろう。

番組内放送順位は「23」「報ステ」が2位（オープニングを除くと実質1位）、「ニュース7」が4位、「α」が8位である。

ニュース時間は、「報ステ」が最も長く628秒、「23」が295秒、「ニュース7」が263秒、「α」が87秒となっている。

タイトルテロップの特徴であるが、「ニュース7」と「α」は出来事の実事関係をタイトルテロップにしているが、「報ステ」と「23」はタイトルテロップからは出来事の詳細は伝わらないようなものとなっている。「報ステ」はサブタイトルテロップで出来事の実事関係を記しているが、「23」ではそれもなかった。なお「23」のタイトルテロッ

プは「退場ドミノ」とあり、閣僚辞任のニュースなどでもよく見る皮肉を交えた表現となっている。

サブタイトルテロップにおいても、「ニュース7」は、基本的には出来事の実事関係を示すのみである。カッコ付けで「愚かな言葉選びが間違い」と本人の謝罪の際の言葉を用いている。一方、「報ステ」は、海外メディアの声として「崩壊が止まらず」といった論評の言葉や、「国際社会の反感強く…前日の決断」というように出来事の背景を推測してサブタイトルテロップとしている。

「ニュース7」では解任の事実を伝える姿勢が、また「報ステ」と「23」では海外や国際社会からの声から出来事を批判する姿勢が見えそうだ。

図表Ⅷ-3：小林賢太郎氏の開会式演出担当解任に関するニュースの比較

7月22日（木）

番組名	番組内 放送順位	ニュース 時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
1 ニュース7	4	263 (263)	東京オリンピック あす開幕 開閉会式担当 "ユダヤ人虐殺 を揶揄" 小林賢太郎氏解任	1)東京オリンピック あす開幕 開閉会式担当の小林氏解任 過去にユダヤ人虐殺を揶揄 2)東京オリンピック あす開幕 開閉会式担当の小林氏解任 "愚かな言葉選びが間違い、" 3)東京オリンピック あす開幕 開閉会式担当の小林氏解任 過去にユダヤ人虐殺を揶揄 4)東京オリンピック あす開幕 開閉会式担当の小林氏解任 あすの式典へ"早急に見直し、
2 zero				
3 23	2	295 (295)	"退場ドミノ" 海外メディア 「呪われた大会」	
	12	90 (90)	小林氏解任に 速報 元コンビ 片桐 仁氏コメント	1)小林氏解任に 速報 元コンビ 片桐仁氏コメント
4 α	8	87 (87)	演出担当者を解任 開会式は予定通り実施へ	1)開会式は予定通り実施へ 演出担当者を解任 開会式は予定通り実施へ
5 報ステ	2	628 (628)	速報 組織委 「開会式は予定通り実施」	1)速報 「予定通り実施の方向で準備」 五輪開会式 演出担当を解任 2)ホロコースト"やゆ"人権団体が批判 五輪開会式 演出担当を解任 3)小林氏が謝罪「言葉選びが間違い」 五輪開会式 演出担当を解任 4)海外メディア「崩壊が止まらず」 五輪開会式 演出担当を解任 5)速報 「予定通り実施の方向で準備」 五輪開会式 演出担当を解任 6)速報 開会式"一人で演出部分なし" 演出担当を解任「予定通り実施へ」 7)国際社会の反感強く…前日の決断 五輪開会式 演出担当を解任

2.2.3 誰に取材をして伝えるのか

ニュースをみていくと、「ニュース7」と「23」「報ステ」は、それぞれニュース時間が異なるため、扱う内容の詳細は若干異なっているが、伝え方や出来事の流れの説明の仕方などは、基本的に類似している。

番組によって肉付きは若干異なるが、それはおおむね次のような流れとなっている。まず「異例の事態」の発生を告知し、小林氏が解任されたことを説明する。次に、記者会見の映像から組織委橋本会長のコメントを引用して組織委等の立場を示す。また、出来事を受け止める人々の声や批判や抗議の声、外国メディアの反応、これまでの五輪関係者の辞任の例などを伝える。問題となった小林氏のコントの内容やこれまでの小林氏

の活動を振り返り、今回の謝罪コメントを印刷した用紙を映像に映し出ししながら、謝罪文の一部を朗読する。最後に、組織委の精査の結果として、本人は演出の調整役であり具体的な演出部分がない、として予定どおり実施することを伝える、という流れである。

なお「α」は、冒頭で「異例の事態」と述べてはいるが、ごく簡単に出来事を説明した以外では、橋本会長の記者会見の言葉を紹介するにとどまっている。

どのニュースも組織委会長の橋本氏の発言を元に出来事を説明する構成をとっている。特に「ニュース7」は、繰り返し橋本氏の発言を取り上げて出来事を説明していた。そこで、橋本氏の発言以外の取材内容を整理したものが図表VIII-4である。

図表VIII-4：橋本氏の発言以外の各番組による取材内容

<p>「ニュース7」</p> <ul style="list-style-type: none">・アメリカのユダヤ系人権団体のウェブサイトに掲載された抗議内容・市民の声（男性1名、女性2名）・電話取材によるアウシュビッツ平和博物館館長のコメント・菅総理のぶらさがり取材での発言・組織委の記者会見での武藤事務局長の発言
<p>「23」</p> <ul style="list-style-type: none">・菅首相のぶら下がり取材での発言・小池百合子東京都知事への取材・市民の声（男性1名、女性2名）・都内のイスラエル料理店のユダヤ人の店主・海外メディアの反応（フランス「リベラシオン」、ドイツ「ヴェルト」）
<p>「報ステ」</p> <ul style="list-style-type: none">・菅総理のぶらさがり取材での発言・アメリカのユダヤ系人権団体のウェブサイトに掲載された抗議内容・ユダヤ系人権団体の幹部へのオンライン取材・海外メディアの記者へのインタビュー (フィンランドの新聞記者、ポルトガルの通信社記者)・海外メディアの反応（ドイツ国営メディア）・組織委の記者会見での武藤事務局長の発言・菅総理のぶらさがり取材での発言（同じ発言 2度目）・匿名の政府関係者の声

特徴としては、どの番組でもなんらかのユダヤ系関係者への取材を行っていることが挙げられる。ただし、「23」では、イスラエル料理店のユダヤ人の店主を取材しているが、アメリカのユダヤ系人権団体の抗議内容は取り上げていない。また、「ニュース7」は海外メディアの反応を取り上げていない。「報ステ」は、菅総理のぶらさがり取材での発言を2度に渡り流している。「報ステ」のタイトルテロップは「開会式は予定通り実施」となっており、その点を発言した菅総理の言葉で「予定どおり」を強調しているといえる。また、上記の小山田氏のニュースでもあったが、匿名の「政府関係者」の声を取材している点も特徴で、今回も同様のコメントが紹介された。

なお、「ニュース7」は、ニュースの最後に「異例づくし」の例として、スポンサー55社のうち37社が開会式に出席しないことをこのニュースの中で伝えている。こうした流れでこのニュースを伝えたのは「ニュース7」のみである。いわば、国内でも異例の事態に対する厳しい反応があることを間接的に伝えているともいえそうだ。

「23」はニュース冒頭で「大会コンセプトである“多様性と調和”これを揺るがす事態がまたもや発覚」とキャスターが述べているが、直接の論評は少ない。例えば、ユダヤ人の店主の声である「虐殺を冗談にしてはいけない。西洋の歴史をわかっていない。もうちょっと勉強したらいい」といった発言や、市民の声「最初に選ぶときふさわしい人を選んでおけば問題なかった」のように、「エグザンプラー⁴⁾」を提示し、間接的に小林氏本人や組織委を批判するような姿勢になっている。

「報ステ」は、冒頭で「大きい動き」「直前に問題が相次いでいる」とニュースバリューに関してキャスターが論評しているほか、ニュース中盤では「海外メディアは解任は当然という見方」をしていると海外メディアのまなざしを一般化している。また、ニュース後半では、国立競技場から伝えるレポーターが、「予定どおり」とはどういう意味か、とキャスターに問われるなかで、「ドラバタ劇」と論評したほか、解任という重い判断は時間がなかったからだろう、と出来事の背景を推測している。そして、小山田氏のニュース同様に、ニュースの最後にはコメンテーターが総括の論評を行うなど、批判的な姿勢をもっとも強い論調で伝えたのは「報ステ」であったといえるだろう。

なお、「23」と「報ステ」は、ニュースの導入部分で新国立競技場周辺にて写真撮影する人々をレポートし、出来事が開幕直前であることを示していた。また、小林氏の過去のコントを紹介する際などには、第2次大戦の際の記録映像などが挿入されている。こうした演出は「ニュース7」では見られていない。また、小林氏のこれまでの経歴や高い評価などはニュース時間の長い「報ステ」のみで伝えられている。これも小山田氏のニュースと同様の傾向だ。

このように類似した構成で伝えられるニュースであっても、番組によって取材対象は異なっている。図表VIII-4にあるように、菅首相のぶらさがり取材はどの番組でも取り上げているが、ニュースソースにはある程度、多様性が認められている。ただし、1本あたりのニュース時間は番組ごと違いがあり、ニュース時間の短い「ニュース7」や「23」

において、市民の声が取り上げられているのは、こうした声がしばしば情動的な反応なども含むことから編集しやすく、番組構成に合致していることもあるだろう。

2.3 河村たかし名古屋市長がメダルを噛んだニュース

2.3.1 出来事の概要

2021年8月4日（水）に、ソフトボール日本代表の後藤希友投手が、名古屋市長の河村市長を訪ね、金メダル獲得の報告をしたところ、河村市長が首にかけられたメダルを突然、噛み、批判を浴びて謝罪したという出来事である。

2.3.2 報道の比較

この出来事を伝えたのは、「ニュース7」「23」「報ステ」の3番組である。「23」は、8月4日（水）と8月5日（木）の2回にわたって報じている。「zero」は8月5日（木）に放送がなく、この出来事は報じていない。また、「α」もこのニュースは扱わなかった。

番組内放送順位は「報ステ」が9位、「ニュース7」が10位、「23」は8月4日（水）が16位、8月5日（木）が13位である。五輪と関わる出来事とはいえ、この時期の五輪は、競技が佳境であり、こうしたニュースの番組内放送順位は高くはない。

ニュース時間は、「報ステ」が最も長く118秒、8月5日（木）の「23」が73秒、「ニュース7」が50秒、8月4日（水）の「23」が43秒となっている。どのニュースも短く出来事を伝えている。

「ニュース7」と「報ステ」はタイトルテロップがなかった。8月4日（水）の「23」のニュースにもタイトルテロップはなく、8月5日（木）の「23」のみが「メダルかじり 河村市長が謝罪」と、出来事の事実関係を示した。

サブタイトルテロップもおおむね出来事の事実関係を示すのみで、異なる点は、「ニュース7」が「陳謝」で、「23」と「報ステ」が「謝罪」であること、批判については、「23」が「批判殺到」で、「報ステ」が「抗議 4000件超」とやや具体的な点である。

図表VIII-5：河村たかし名古屋市長がメダルを噛んだニュースの比較

8月5日（木）（「23」1本目は8月4日（水））

番組名	番組内 放送順位	ニュース 時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
1 ニュース7	10	50 (50)	【タイトルテロップなし】	1)名古屋市長 河村市長 メダルかみ 陳謝
2 zero				
3 23	16	43 (43)	【タイトルテロップなし】	1)名古屋市長 河村市長 金メダル噛み批判殺到
	13	73 (73)	メダルかじり 河村市長が謝罪	1)苦情殺到 金メダルかんで…河村市長が謝罪
4 α				
5 報ステ	9	118 (118)	【タイトルテロップなし】	1)河村市長"メダルかじり"謝罪 市への抗議 4000件超

2.3.3 番組によって異なる映像構成による演出

ここでは用いられた映像の構成からニュースの違いをみていきたい。

「ニュース7」では、(1)市長がメダルを噛むシーン（次第にアップに）、(2)ソフトボール選手が所属するトヨタ自動車が発表したコメント、(3)市長の謝罪の記者会見、が用いられた。

8月4日（水）の「23」では、(1)ソフトボール選手、(2)市長と会議室で話しているシーン、(3)選手が市長の首にメダルをかけ、河村市長が「重たいですよ」と話し、その後に市長がメダルを噛むシーン、(4)再度、メダルを噛むシーン（メダルを噛んだシーンで映像はストップ）で「金メダルを噛むパフォーマンスに批判が殺到」というテロップ、(5)市長が会議室で話している模様、(6)市長のコメント（“最大の愛情表現だった”、“金メダル獲得はあこがれだった”）が流れ、「迷惑を掛けているのであればごめんなさい」というテロップとともに、再々度メダルを噛むシーン、が用いられた。

8月5日（木）の「23」では、(1)ソフトボール選手（金メダルをアップに）、(2)メダルを噛むシーンを3回連続で繰り返し、(3)柔道男子60キロ級金メダリストの高藤直寿選手のTwitterのつぶやき、(4)五輪金メダリストの太田雄貴氏のTwitterのつぶやき、(5)市長の謝罪の記者会見、が続く。

「報ステ」では、(1)市長の謝罪記者会見での発言、(2)選手が市長の首にメダルをかけ、その後に市長がメダルを噛むシーン、(3)ソフトボール選手が所属するトヨタ自動車が発表したコメント、(4)再度、メダルを噛むシーン（「名古屋市に4000件以上の抗議や苦情」のテロップ）、(5)市長の謝罪の記者会見、(6)スタジオでのゲストのコメンテーターの論評、(7)この論評中に画面が分割され謝罪記者会見の様子が映し出される、という流れであった。

映像の構成を見ると、基本的には類似しているが、「23」が映像で繰り返し「噛んだ」シーンを強調していることが特徴になっている。

図表VIII-6は、河村市長の謝罪の記者会見で各番組が取り上げた発言内容である。番組によって若干、異なっているが、「ニュース7」と「23」が市長からの「お詫び」の部分を中心に取り上げているのに対し、「報ステ」は記者からの問いかけに回答していると思われる発言を取り上げているが、ゲストが論評する際に「市長はいろんな釈明をしている」と述べており、謝罪よりも釈明の模様を伝える編集であった。つまり、「ニュース7」は河村市長が謝罪するニュースを、「23」は河村市長の噛んだことを伝えるニュースを、「報ステ」は河村市長が釈明するニュースを伝えていたといえそうだ。

このようにニュースで伝達しようとする意図に合致した発言が編集して伝えられている。

図表Ⅷ-6：河村市長の謝罪の記者会見で各番組が取り上げた発言内容

「ニュース7」
- 極めて不適切な行為であった 猛省すべきと通関しており、誠に申し訳なく 心からお詫び申し上げる
「23」
- ご本人様の長年の努力の結晶である金メダルを汚す行為に及びました。誠に申し訳なく心からお詫び申し上げます
- すみません 申し訳ないねということ
「報ステ」
- 宝物だったわけで 配慮が足りず すみませんと 申し訳ないねということ
- あんまり言うともた感じ悪いけど あのときは非常にフレンドリーな感じだった。あのときの感じは みなさん全体 だからそういう状況はちょっと想像できませんでした 申し訳ないけど

どの番組も出来事を批判的に捉えているが、「ニュース7」がトヨタ自動車のコメントから、「23」が繰り返す「囁む」シーンの映像編集と五輪アスリートの Twitter でのつぶやきから、「報ステ」がゲストの論評から、とその伝え方は異なっている。

ただし、批判の内容は、おおむねどの番組も同様であるといえそうだ。「ニュース7」と「報ステ」で伝えられたトヨタ自動車のコメントは「アスリートへの敬意や賞賛、感染予防への配慮が感じられず、大変残念」というものであったが、「23」で取り上げられた五輪選手のつぶやきや、「報ステ」のゲストの論評内容は、それを選手の立場から説明したり、具体的にしたものといえるだろう。また、「報ステ」のコメンテーター（この日は、朝日新聞編集委員の梶原みずほ氏）は、「選手へのねぎらいより自身のパフォーマンスを優先させてしまったということが透けて見えてしまう」と述べているが、「23」が映像編集で「囁む」シーンを繰り返したことは、象徴的にはパフォーマンス重視を意味すると考えられそうだ。

このように番組によって異なる映像構成による演出が見られているが、出来事を象徴的に伝える中で論評するか、直接的に論評するかの違いとなっている。また、東京五輪では、選手への直接の取材が難しくなっており、オンライン取材や SNS での発言などが主に映像化されて伝えられる形式が多く、本ニュースでは SNS での発言内容が映像として用いられている。

2.4 その他の社会ニュースについて

本分析を行う際に、五輪開催期間中に五輪関係の社会ニュースとして伝えられたニュースをいくつか列挙した。例えば、「選手村における飲酒騒動（「Zero」「報ステ）」や「五輪チケットの情報流出問題（「Zero」「23）」、「五輪ボランティアの PCR 未検査問

題（「ニュース7」「23」）などである。しかし、これらのニュースはそれぞれ2番組で報じられている程度で、またニュース時間も短い傾向にあった。

このことは、開催国に関するネガティブなニュースは、これまで五輪開催の祝祭的な雰囲気の記事のなかで見えなくなっていくという、これまで本研究会が示してきた傾向を補強する結果の1つであるといえるだろう。

3 新型コロナウイルスに感染した選手に関するニュースについて

言うに及ばずであるが、東京五輪は新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）のまん延（以下、コロナ禍）の影響を受けて、開催を1年延期して行われた。コロナ禍への対応や関連の動き、五輪開催への影響等は、第IX章に整理されているので参考にさせていただきたいが、開催直前になると、来日する選手や関係者への感染について大きな話題となった。バブル方式による感染対策の導入等で、一般の市民と選手や関係者との接触はないとされていたが、プレイブックによる制限の実効性については批判的な声もあった。五輪で来日する選手や関係者は、当初の計画よりも減っていたとはいえ、いわゆる水際対策の強化で国際的な人流が激減していた中で5万人以上の選手や関係者が来日したわけであり、こうした反応はしかるべきものであったかもしれない。

NHKのまとめによると、オリンピック関連で新型コロナに感染した人は547人であったという。その内訳は、選手は28人、大会関係者が147人、メディア関係者が32人、組織委員会の職員が15人、大会の委託業者が296人、ボランティアが29人となっている。また、海外からの来日した人の感染者数は174人だった（NHK 2021）。

コロナ禍が始まってから東京五輪開催までの1年半、ほぼ連日、テレビのニュース番組では感染者数の推移が示されてきた。こうしたなか、東京五輪開幕が近づき、選手や関係者の来日が本格化するなか、選手や関係者の感染状況も伝えられるようになった。

組織委は、プライバシーの観点から、出身国や氏名は公表しない、としているが、実際には感染した選手本人が取材に答えるなど、一部については報道を通じて出身国や氏名が明らかになっている。では、選手や関係者が新型コロナに感染するという出来事は、どのように伝えられるのであろうか。

本節では、コーディングシートに記載されたタイトルテロップおよびサブタイトルテロップから、選手の感染を伝えたと考えられるニュースを抽出し、整理を行った。

3.1 報道の推移

図表VIII-7は、選手の感染を伝えるニュースをすべて抜粋し、日付順に並べたものである。

図表Ⅷ-7：選手の感染を伝えるニュースの比較

7月19日（月）

番組名	番組内 放送順位	ニュース 時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
1 ニュース7	2	382 (233)	南アフリカ代表 濃厚接触21人	1) 東京五輪まで4日 開幕前に調整 本番の会場で調整も 2) 東京五輪まで4日 南アフリカ サッカー男子チーム 濃厚接触21人"大多数は選手" 3) 東京五輪まで4日 都内など交通規制開始 渋滞や宅配の遅れも
3 23	5	734 (32)	世界6か国100人に聞く 「東京五輪 盛り上がりを感じる？」	1)五輪まで4日 都内で交通規制 反則金も 2)選手村初クラスター サッカー南ア代表 濃厚接触者21人 3)6か国で聞く 「五輪盛り上がりは？」(丸1)日本(日本の国旗) 4)6か国で聞く 「五輪盛り上がりは？」(丸2)韓国(韓国の国旗) 5)6か国で聞く 「五輪盛り上がりは？」(丸3)アメリカ(アメリカの国旗) 6)6か国で聞く 「五輪盛り上がりは？」(丸4)イギリス(イギリスの国旗) 7)6か国で聞く 「五輪盛り上がりは？」(丸5)ロシア(ロシアの国旗) 8)6か国で聞く 「五輪盛り上がりは？」(丸6)中国(中国の国旗) 9)100人に聞く 世界6か国 五輪に盛り上がりは？
5 報ステ	3	738 (498)	日本と対戦の南ア 濃厚接触者21人	1)交通規制始まる・・・"渋滞"で困惑も 開幕まで4日 相次ぐ選手団の感染 2)日本初戦の南ア"濃厚接触"21人に 開幕まで4日 相次ぐ選手団の感染 3)イギリスの陸上選手らも"隔離" 開幕まで4日 相次ぐ選手団の感染 4)事前合宿の米女子体操でも陽性者 開幕まで4日 相次ぐ選手団の感染 5)海外記者が「15分ルール」を"検証" 開幕まで4日 相次ぐ選手団の感染 6)世論調査52%「感染防止策が緩い」 開幕まで4日 相次ぐ選手団の感染 7)開幕まで4日・・・不安拭えぬ国民 菅内閣の支持率が3割下回る

7月20日（火）

1 ニュース7	2	643 (209)	五輪 あすから競技スタート 大会関係者 新たに9人陽性	1)東京五輪まで3日 あすから始まる競技も ソフトボール 2)東京五輪まで3日 あすから始まる競技も サッカー女子 3)東京五輪まで3日 所在不明のウガンダ選手 三重県で見つかる 4)東京五輪まで3日 選手村で新たに選手が感染 初めて大会ボランティアも・・・ 5)東京五輪まで3日 サッカー 南アフリカ代表が練習 濃厚接触者18人で日本戦は？ 6)東京五輪まで3日 "6時間前の検査陰性で出場" 専門家「二重に」「試合後も」 7)東京五輪まで3日 IOC総会でバッハ会長 "平和・連帯のメッセージ送る" 8)東京五輪まで3日 各地で直前準備 進む "楽しみ" "感染が心配" 9)東京五輪まで3日 開幕式の作曲担当 辞任 五輪相"大会精神 共有に努力"
3 23	2	533 (269)	五輪まで3日 きょうは絵本 作家・・・"辞任ドミノ"	1)五輪まで3日 絵本作家のぶみ氏も・・・"辞任ドミノ" 2)五輪まで3日 東京1387人 大会関係者も9人感染 3)五輪まで3日 交通規制で「配送1日遅れる場合も」 4)五輪まで3日 絵本作家のぶみ氏も・・・"辞任ドミノ"
5 報ステ	3	823 (506)	開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ	1)濃厚接触者18人 南ア代表は・・・ 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ 2)失踪のウガンダ選手 三重で発見 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ 3)菅総理「安心安全の大会」決意 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ 4)選手村に滞在・・・チェコ代表感染 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ 5)日本と対戦 サッカー南ア代表は・・・ 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ 6)選手村に滞在・・・大会への不安は 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ 7)12～15歳対象のワクチン接種も 東京 新規感染 1387人 8)くっつきやすい→重症化 新たに判明 デルタ株の"特徴" 9)北海道"まん延防止"を要請 新たに判明 デルタ株の"特徴" 10)陽性者の"情報開示"必要では 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ

7月21日（水）

1 ニュース7	3	478 (103)	ソフトボール 白星スタート	1)東京オリンピック 競技始まる ソフトボール 初戦快勝 先発エース上野が好投 2)東京オリンピック 競技始まる ソフトボール 初戦快勝 26日は米国 勝利の鍵は 3)東京オリンピック 競技始まる "なでしこ"初戦まもなく 注目選手も着々と準備 4)東京オリンピック 競技始まる 感染の海外選手 初の棄権 10日間の隔離措置で 5)東京オリンピック 競技始まる サッカー男子 初戦へ調整 どうなる南アフリカ戦 6)東京オリンピック 競技始まる "持てる力を十分発揮し 最高のパフォーマンスを"
2 zero	4	250 (189)	【タイトルテロップなし】	1) 新着 あす日本と初戦「濃厚接触」南ア代表は 2) 大会関係者 新たに8人感染「選手村」でも 3) 選手村 宿泊"拒否"や「風呂狭い」酷評も

7月22日 (木)

番組名	番組内 放送順位	ニュース 時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
1 ニュース7	3	496 (210)	選手感染の南アフリカ戦 開催へ	1)東京五輪 サッカー男子まもなく初戦 南ア選手感染 直前に開催判断 2)五輪開会式前日も・・・ 東京1,979人感染確認隣接の首都圏3県でも・・・ 3)五輪 開会式前日も・・・ 1,979人感染確認 目立つ若い世代 病院も・・・ 4)五輪 開会式前日も・・・ 東京 試算では・・・来月新規 感染1日5,000人越も 5)五輪 開会式前日も・・・ 来日選手 感染相次ぎ欠場も 6)五輪 開会式前日も・・・ 感染防止ルール 違反で処分も

7月23日 (金)

1 ニュース7	4	283 (103)	東京1,359人 拡大止まらず	1)東京オリンピック このあと開会式 東京1,359人感染確認 無観客でも 周辺大混雑 2)東京オリンピック このあと開会式 チェコ選手団 感染6人に 医療現場 強まる危機感 3)東京オリンピック このあと開会式 東京1,359人感染確認 無観客でも 周辺大混雑
2 zero	2	370 (160)	新着 クラスター発生 ・・・感染選手証言	1) 新着 選手が証言・・・最多19人感染 2) 新着 「開幕の日」東京感染1359人 3) 新着 「感染」選手が証言・・・クラスター発生

7月25日 (日)

1 ニュース7	6	183 (60)	東京1,763人 日曜では最多	1)東京1,763人の感染確認 日曜日では最多 50代までが95% 2)東京1,763人の感染確認 五輪選手の感染相次ぐ ゴルフ有力選手2人も
---------	---	-------------	-----------------	--

7月30日 (金)

2 zero	3	160 (160)	【タイトルテロップなし】	1) 「バブル」は・・・ 新橋に海外選手ずらり・・・なぜ？ 2) 大会関係者 27人感染・・・審判員“無断外出”も 3) 競技出られず “感染選手”が語る・・・隔離生活
--------	---	--------------	--------------	--

ここから分かるのは、選手の感染を伝えるニュースのほとんどは開会式当日までであり、競技のほとんどが開始された7月24日(土)以降は、ニュースは2つしかないということである。

ニュースで伝えられた選手の出身国と競技は、図表VIII-8のようになっている。

図表Ⅷ-8：ニュースで伝えられた選手の出身国と競技、報道回数

出身国	競技名	感染者数	報道回数
南アフリカ	サッカー	2名	9回
チェコ	ビーチバレー	2名	6回
チェコ	卓球	1名	1回
チェコ	自転車	1名	1回
アメリカ	体操	1名	2回
アメリカ	ゴルフ	1名	1回
チリ	テコンドー	1名	2回
イギリス	陸上	1名	1回
オランダ	スケートボード	1名	1回
オランダ	テコンドー	1名	1回
オランダ	競技不明	1名	1回
ドイツ	競技不明	1名	1回
ドイツ	自転車	1名	1回
スペイン	ゴルフ	1名	1回

※ 人数が示されない報道は集計外

3.2 南アフリカの選手の感染ニュースについて

ニュースの多くは、サッカー男子予選リーグで日本と対戦する南アフリカの選手の感染および濃厚接触者の発生についてである。試合は7月22日（木）に行われたが、それまでの期間で9回の報道があった。感染は選手が2名、関係者が1名であったが、濃厚接触者として21名（後に19名に、さらに18名に修正された）が待機となっていた

報道が多くなった背景は、南アフリカの対戦相手が日本であったことだろう。7月19日（月）の「23」では「“心配されるのは選手への感染”」と伝えられた。心配される選手は明示されていないが、対戦相手の日本を指すことは明白である。また、日本代表選手へのオンライン取材もしばしば取り上げられ、「心配していない（7/19 「報ステ」、遠藤選手）」

「それほど気にしない（7/20 「ニュース7」、三苦選手）」「相手をたたきだけ それだけ準備したい（7/20 「ニュース7」、酒井選手）」「自分たちのことに集中（7/21 「ニュース7」、久保選手）」と回答しているが、こうした発言から、取材する側が日本選手への影響について質問していることが明らかに推測できる。また、記者会見ではキャプテンの吉田選手が「“非常に残念”、“マネジメントも大事”、“準備するに尽きる”（7/20 「23」「報ステ）」」などとコメントした内容が伝えられた。

濃厚接触者も多く、出場選手数に下限のある団体競技のサッカーでは、試合の実施が危ぶまれたこともあり、連日のように報道があった。7月19日（月）の段階では、組織委の会見による説明（「ニュース7」）があったほか、「試合はどうなるんでしょうか（7/19

「報ステ」)」「試合はどうなるのか (7/20 「ニュース 7」)」といった言葉もニュース中に聞かれ、ルールやプレイブックの内容の解説もしばしば行われていた。

また、南アフリカ選手について「“チームは指示に従っている” (7/19 「報ステ」、組織委)」ことを伝えたり、選手がマスクをつけて練習場に向かう模様 (7/20 「ニュース 7」) や、選手が声を出さずに練習している模様 (7/20 「報ステ」)、練習場に入場する際に消毒をしている模様 (7/21 「zero」) を映像やキャスターの発言で示すなど、対策のありようも伝えられた。ただし、7月20日(火)の「報ステ」のニュースでは「練習する選手には濃厚接触者も混じっているようです」とも伝えている。

南アフリカの選手の声も伝えられた。代表チームの記者会見では「“ベストをつくす”、”どうすることもできない”、”2名隔離中でそれ以外は問題ない”」といった発言が伝えられている (7/20 「報ステ」)。また、南アフリカの選手へのオンライン取材では「“こんな経験をするとは思わなかった”、”ちゃんとした準備ができなかった”、”不利な条件だが前向きだ”」といった発言が取り上げられた (7/20 「23」)。

こうした報道からは、人気競技への関心の高さもあるが、開会式前やや特殊な五輪への関心が象徴されているかのようである。

3.3 チェコの選手の感染ニュースについて

次に多く伝えられたのはチェコの選手の感染で、「“チェコの選手団にはクラスターが起きている” (7/23 「zero」)」と報じられた。

この7月23日(金)の「zero」のニュースでは、まず最初にワクチン接種をしていないチームドクターから感染が確認されたことが伝えられており、チェコのチームの主将が「“スキャンダルだ”、”なぜこうなったか理解できない”」と話したことを伝えている。このニュースは、飲食店が自粛するニュースや国内の感染拡大のニュースと1つのコーナーを構成していることから、社会問題化する感染拡大のニュースの文脈で報じられているといえる。

また、同日の「ニュース 7」では、チェコの選手団がチャーター便で来日したことや、現地メディアの報道から42名が搭乗していたこと、機内で広がった可能性があることなどが伝えられた。このニュースでは、五輪選手へのコロナ対応を行う指定の病院の医師が取材に答えているが、「“危機感を強めている”、”これ以上増えると地域医療に影響”、”気持ちが緩むことが懸念される”」といった発言があり、五輪の範囲を越えて一般の市民に影響を及ぼす出来事として問題設定している。

ただし、チェコの選手の感染が報じられたのは、7月20日(火)の「ニュース 7」が初めてで、当初は選手村で確認されたことが伝えられていた。この日の「ニュース 7」では、選手村への滞在を拒否してホテルへ滞在するアメリカの選手などについて伝えており、選手の感染の報道は、選手村の問題と合わせて1つのニュースを構成していた。後に機内によるクラスターの報道があったことから、感染の原因の報道は、選手村に寄

せられていた安全管理上の問題から、自主管理上の問題へと変化したといえる。

感染したチェコの選手が取材に答えた例が2つあるが、感染対策も徹底していたというチェコのビーチバレーの選手が「どこかでミスをして感染したのでしょうか。これに関しては私自身が責任を取るべきです (7/20 「報ステ」)」といった発言や、自転車ロードレースの選手の「“目を疑った”、“がっかりした”、“いつ帰れるのかわからない”、“ポジティブに考えようとしても難しい”」といった発言となっており、出場できなかった悲壮感が伝えられている。

3.4 その他の出身国の選手・関係者の感染ニュースについて

表VIII-7には掲載されていないが、7月19日(月)には「報ステ」がイギリスの陸上選手と関係者8名が濃厚接触者となったことや、アメリカの女子体操選手が感染したことを伝えている。この体操選手については「10代選手の感染」と年齢についても合わせて伝えられており、その他の選手の伝え方とは異なっていた。

7月21日(水)の「ニュース7」では、チリのテコンドー選手が来日した後の検査で陽性が判明したことを伝えているが、「試合に出場できなくなるケースは初」として報じられている。このチリの選手については、同日の「zero」でも伝えられているが、無症状だが出場できない点が伝えられた。このニュースでは「止まらない大会関係者の感染」と題されて伝えられるなど、選手への感染の広がりやのニュースで取り上げられている。

オランダのスケートボード選手は「私のオリンピックの旅はここで終わる (7/22 「ニュース7」)」と取材に答えていたほか、ドイツの自転車ロードレースの選手は「“精神的に参っている”、“刑務所のような”、“食べ物毎日同じようなものばかりでありあまりいい気がしない” (7/30 「zero」)」といった発言が取りあげられるなど、療養のための隔離処置についても、療養中の一般の人々の声としてもよく聞かれるような幻滅を口にしてることから、ニュースではアスリートの強さのステレオタイプを切り取ったような発言だけが流されていたわけではない。

関係者については、選手のように個人名が紹介されたり、本人が番組の取材に答えるような場面はなかった。しかし、7月30日(金)の「zero」のニュースでは、検査で陽性が判明したボート競技の審判員が宿泊料用施設から無断外出した出来事が伝えられている。この審判員は「“ワクチンを打っていて陽性はおかしい”」と主張し、外出は再検査を受けるためだったという。このニュースは、新橋駅の近くで出歩いているオーストラリア選手に関するニュース(実際は、検査のための外出だったという)の後に報じられ、2つのニュースの文脈から、バブル方式が守られていないことを批判的に捉えるメッセージとなっている。

3.4 選手・関係者の感染を伝える際のそのほかの取材内容

選手の感染を伝える際に、その他にどのような情報源からニュースを構成するのだろうか。表VIII-9は、取り上げられた取材内容を整理したものである。なお、感染者数を発表していた組織委は除いてある。

表VIII-9：選手の感染を伝える際に取り上げられた取材内容

取材対象	発言内容
ロンドン五輪公衆衛生ディレクター	想定より少ない 選手村は安全 隔離可能で日本にまん延させることはない
小池百合子都知事	内容を精査している 日本人もいる 海外からだけではない ルールブックを守っていただくようお願いする
バッハIOC会長	未来を信じる力 皆さんの偉業
菅総理大臣	安心安全 対策徹底 決意
民主党	15分ルールの検証シーン 国民への説明と異なる
厚生労働大臣	バブルの管理が大事
アゼルバイジャンNOC広報部	組織委に従う 名前非公表に賛成
東京医科歯科大医師	危機感を強めている これ以上増えると地域医療に影響 気持ちが緩むことが懸念される

※ 内容は発言の概要

このように取材内容を列挙すると、感染した選手の発言やコメントと対比して、形式的な発言が多くなっているようだ。

3.5 次第に減少していく選手の報道

7月19日(月)の「報ステ」では、コメンテーターの太田氏は、菅内閣への支持率低下のデータについて解説をしながら、「五輪開催とコロナ拡大への強い不安」と述べ、バブルの緩さを批判しつつ、指導力と対応能力に疑問との論評を述べた。

また、7月23日(金)の「zero」のニュースの際に、キャスターの有働由美子氏は「(開会式の)華やかなニュースをお伝えした後に、こうしたニュースを伝えなくてはならないのが今年の夏です」と述べ、選手感染のニュースを伝えた。

しかし、開催期間を通じて547人の選手・関係者が感染する中、開催式が行われ本格的に競技が行われ始めるなか、選手の感染に関する報道は次第に行われなくなっていく⁵⁾。また、日本選手団の関係者に関するニュースは一つもなかった。

前項の社会ニュースの分析の際に、述べたことであるが、祝祭的な雰囲気報道なかでネガティブなニュースが減少するすることが示されているともいえるが、一方で競技実施と直接関わる選手の感染が、スポーツをめぐる出来事としてよりも、社会の問題、

あるいは外国からやってくるものとして捉えられていたということであるならば、報道が五輪にける選手の思いやコロナ禍で来日した選手の複雑な状況を汲んでその努力や才能を伝えていたとはいえない、という批判は免れないではなかろうか。

5 メダル獲得に関するニュースについて

東京五輪では、日本代表選手団は史上最多の 58 個のメダルを獲得した。その内訳は、金メダル 27 個、銀メダル 14 個、銅メダル 17 個である。本報告書の第VII章においては、メダルを獲得した選手は、ニュースでより多く取り上げられる傾向が示されている。ここでは、日本人選手がメダルを獲得した際の、番組間でニュースの重複について分析する。また、事例の分析として、初の金メダルとなった卓球混合ダブルスの決勝のニュースと、沖縄出身者が個人競技で初めてメダルを獲得したニュースを取り上げ、その報道の仕方を考察していく。

5.1 メダルを獲得した種目の番組別にみた番組内放送順位と放送重複数

図表VIII-10 と図表VIII-11 は、メダルを獲得した種目をリストアップし、それぞれの番組でメダル獲得に関する報道があったかどうかを示したものである。報道があった場合には、その番組内放送順位を記した。種目ごとに番組内放送順位の平均値も示してある。また、メダル獲得に関するニュースの番組間での重複数を示した。たとえば重複数が 2 の場合は、2 番組でそのニュースを伝えたことを示し、5 の場合はすべての番組でそのニュースを伝えたことになる。

なお、図表VIII-10 と図表VIII-11 は、コーディングシートにおいてタイトルテロップおよびサブタイトルテロップにメダル獲得のニュースであることが示されたニュースのみが含まれている。また、振り返りの報道や凱旋後の報道などは獲得のニュースではないので、表には含まれていない。

重複数を見ると、金メダルのニュースにおいて、4 種目で重複数が 5 となっている。このように全ての番組で重複したのは、銀メダルで 1 種目、銅メダルではなしだったので、メダルによってニュースの重複数が異なっていることが分かる。

重複数において、重複なしとなっている種目は、特定の番組のみで報じられたニュースである。金メダルでは、「23」がレスリングのメダルについて独自に報じたほか、「銀」「銅」では「ニュース 7」のみが単独でいくつかの種目の結果を伝えている。

また、メダルを獲得しても、番組で報じられていないケースもあり、個数の多い金メダルではレスリングや柔道、野球で、銀・銅では、ゴルフやスポーツクライミング、空手などでニュースとして伝えられなかった。

なお、メダルによる番組内放送順位の平均値には有意差が認められ ($F=4.12$, $df=48$, $P<.05$)、等質サブグループ検定では、金メダルと銀メダルは差がなく、銅メダルにおいて番組内放送順位が低くなっていた (Turkey B: 金=5.57, 銀=5.81, 銅=7.33)。また、

重複数と番組内放送順位の平均値には有意差は認められなかった。

図表Ⅷ-10：金メダルを獲得した種目の番組別にみた番組内放送順位と放送重複数

メダル	競技	種目	選手名	NHK	zero	23	α	報ステ	番組内放送順位 平均	重複数
	柔道	男子100kg級	ウルフ アロン	6	4	5	2	8	5.0	5
	柔道	女子78kg級	濱田 尚里	6	4	5	2	8	5.0	5
	スケートボード	女子パーク	四十住 さくら	6	3	4	2	12	5.4	5
	フェンシング	男子エペ団体		10	4	13	2	11	8.0	5
	水泳/競泳	女子200m個人メドレー	大橋 悠依	7	1		4	8	5.0	4
	卓球	混合ダブルス		10	2	3		5	5.0	4
	スケートボード	女子ストリート	西矢 椛	6	7	5		3	5.3	4
	柔道	女子78kg超級	素根 輝	4	5		2	12	5.8	4
	柔道	男子73kg級	大野 将平	1		5		2	2.7	3
	スケートボード	男子ストリート	堀米 雄斗	2		5		3	3.3	3
	水泳/競泳	女子400m個人メドレー	大橋 悠依	2		5		3	3.3	3
	空手	形/男子形	喜友名 諒		6	6	3		5.0	3
	体操/体操競技	男子種目別鉄棒	橋本大輝		4	5		11	6.7	3
金	柔道	女子70kg級	新井 千鶴		7		5	8	6.7	3
	レスリング	フリースタイル/女子62kg級	川井友香子		6	5		13	8.0	3
	ボクシング	女子フェザー級(54-57kg)	入江聖奈	7	5	4		10	6.5	4
	柔道	男子81kg級	永瀬 貴規	3	7				5.0	2
	野球・ソフトボール/野球	女子ソフトボール					2	8	5.0	2
	レスリング	フリースタイル/女子57kg級	川井梨紗子				2	10	6.0	2
	柔道	男子66kg級	阿部 一二三	8		4			6.0	2
	柔道	女子52kg級	阿部 詩	11	7				9.0	2
	レスリング	フリースタイル/女子53kg級	向田真優			5				重複なし
	体操/体操競技	男子個人総合	橋本大輝							報道なし
	レスリング	フリースタイル/男子65kg級	乙黒拓斗							報道なし
	レスリング	フリースタイル/女子50kg級	須崎優衣							報道なし
	柔道	男子60kg級	高藤 直寿							報道なし
	野球・ソフトボール/野球	男子野球								報道なし

※ 番組内放送順位

※ 番組数

図表VIII-11：銀・銅メダルを獲得した種目の番組別にみた番組内放送順位と放送重複数

メダル	競技	種目	選手名	NHK	zero	23	α	報ステ	番組内放送順位 平均	重複数
銀	スケートボード	女子パーク	開心那	6	3	4	2	12	5.4	5
	水泳/競泳	男子20mバタフライ	本多灯	7	3		4	8	5.5	4
	陸上競技	男子20km競歩	池田向希	8		4	6	14	8.0	4
	体操/体操競技	男子団体			5	3		4	4.0	3
	スポーツクライミング	女子ボルダリング・リード・スピード複	野中生萌		5	6	3		4.7	3
	卓球	女子団体				4	3	11	6.0	3
	レスリング	グレコローマンスタイル/男子60kg級	文田健一郎		8	4		8	6.7	3
	サーフィン	男子ショートボード	五十嵐カノア	9		5			7.0	2
	バスケットボール/バスケットボール	女子バスケットボール		4			12		8.0	2
	空手	形/女子形	清水希容			5		12	8.5	2
	自転車/トラック	女子オムニウム	梶原悠未	4						重複なし
	柔道	女子48kg級	渡名喜風南	2						重複なし
	柔道	混合団体		14						重複なし
	ゴルフ	女子個人	稲見萌寧							報道なし
銅	卓球	女子シングルス	伊藤美誠		3	6	3	8	5.0	4
	卓球	男子団体		6	16	6	3		7.8	4
	陸上競技	男子200m競歩	山西利和	8		4	6	14	8.0	4
	ボクシング	女子フライ級(48-51kg)	並木月海		16	7	4	14	10.3	4
	柔道	女子57kg級	芳田司	7	3			2	4.0	3
	ウエイトリフティング	女子59kg級	安藤美希子	11		5	3		6.3	3
	バトミントン	混合ダブルス			6		2	12	6.7	3
	アーチェリー	男子団体		6	14			3	7.7	3
	ボクシング	男子フライ級(48-52kg)	田中亮明			7	7	13	9.0	3
	サーフィン	女子ショートボード	都筑有夢路	9		5	3		5.7	3
	スケートボード	女子ストリート	中山楓奈	6				3	4.5	2
	レスリング	グレコローマンスタイル/男子77kg級	屋比久翔平		11			12	11.5	2
	体操/体操競技	女子種目別ゆか	村上茉愛	8	7	4		7	6.5	2
	体操/体操競技	男子種目別あん馬	壺和磨	11						重複なし
アーチェリー	男子個人	古川高晴	6						重複なし	
スポーツクライミング	女子ボルダリング・リード・スピード複	野口啓代							報道なし	
空手	組手/男子75kg超級	荒賀龍太郎							報道なし	

※ 番組内放送順位

※ 番組数

図表VIII-10 と図表VIII-11 において、メダル獲得をニュースにしなかった場合は、番組内放送順位の欄が空欄となっているが、その空欄に0を入力して、金・銀・銅のすべての番組内放送順位の数表を用いて、相関係数を出力したものが、図表VIII-12 である。相関係数は決して大きくないが、有意差検定をふまえると、「ニュース7」「Zero」が比

較的に独自性をもった報道を行い、「23」と「 α 」は、番組構成こそ異なれメダル獲得の報道の有無や順位においては「報ステ」と類似しているという結果となった。

図表VIII-12：番組間の均質性（番組内放送順位を用いた相関係数）

	ニュース7	Zero	23	α	報ステ
ニュース7	1.00	-0.03	0.12	0.04	-0.10
Zero		1.00	0.21	0.01	0.25
23			1.00	0.19	0.36**
α				1.00	0.33*
報ステ					1.00

*は5%水準で有意、**は1%水準で有意

いずれにせよ、メダル獲得の報道においては、放送する競技・種目の選択やニュースバリューの示し方において、番組間の均質性はさほど認められておらず、多様な放送が行われていたといつてよいだろう。

5.2 卓球混合ダブルスの金メダル獲得に関するニュースについて

5.2.1 出来事の概要

東京五輪より卓球の新種目となった混合ダブルスで、日本の水谷準選手と伊藤美誠選手（以下、水谷・伊藤ペア）が決勝で中国を破り、金メダルを獲得したニュースである。日本は卓球競技では初の金メダルの獲得となった。

5.2.2 報道の比較

この出来事は、「 α 」以外の番組で報じられている。7月26日（月）22時過ぎに金メダル獲得が決まったことから、「ニュース7」の報道は翌日の7月27日（火）である。「 α 」は金メダル獲得後の7月26日（月）には放送がなく、翌日の放送でもこのニュースを伝えていない。ただし、フジテレビではこの卓球混合ダブルス日本対中国を実況中継しており、ニュースでダイジェストを伝えることはしなかったと考えられる。

番組内放送順位は、図表VIII-13のように、速報として伝えた「zero（2位）（4位）」「23（3位）」「報ステ（5位）」と高い。また試合のダイジェストを含み、放映時間も長い傾向になっている。なお、「23」は、タイトルテロップにあるように、複数の競技結果等を伝えるニュースのなかの一部として伝えており、この出来事の放映時間は、221秒だった。また、「zero」は、別のニュースを1つ挟んで、選手へのインタビューを別枠で放映しており、合計時間は473秒と最も長かった。

図表Ⅷ-13：卓球混合ダブルスの金メダル獲得に関するニュースの比較

7月26日（月）

番組名	番組内 放送順位	ニュース 時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
2 zero	2	374 (374)	速報 大逆転「金」 水谷&伊藤ペア	1)速報 大逆転「金」卓球 水谷&伊藤ペア
	4	99 (99)	速報 卓球初「金」 水谷&伊藤が語った	1)速報 卓球初「金」水谷&伊藤が語った
3 23	3	455 (221)	スポーツのチカラ 速報 卓球&体操（日本の国旗）メダ ラッシュ	1)開幕4日目（日本の国旗）今夜もメダルラッシュ 2)速報 卓球 水谷&伊藤×最強・中国 3)速報 体操男子団体（日本の国旗）五輪連覇へ
4 α	放映なし			
5 報ステ	5	221 (221)	東京五輪 速報 日本卓球 混合ダブルス 金メダル	1)速報 日本 新種目 混合ダブルス 金メダル 卓球 東京五輪

7月27日（火）

1 ニュース7	10	191 (191)	日本卓球界初の金メダル 卓球王国 中国は…	1)東京オリンピック 卓球混合ダブルス金メダル 中国"まさかの逆転負け" 卓球王国の壁 打ち破る
---------	----	--------------	--------------------------	---

5.2.3 報道のタイミングやその他の番組編成によって異なるニュース構成

放映時間の早い順から放送の模様を説明していく。

まず、この日の放送中に金メダル獲得が決まったことから、「報ステ」は「速報」として伝えている。キャスターは、スタジオで紹介する際に「この競技では金が初めて。すごいです」とやや興奮気味に述べている。

映像は、入場のシーンから始まり、肘タッチでの挨拶、練習シーンに続き、プレイのダイジェストが続いた。ダイジェストでは、第2と第6ゲーム（どちらも日本が負けているゲーム）以外が放映された。一度、関係者の喜びの瞬間が挿入されている。その後は、水谷・伊藤ペアへの試合直後のインタビューが伝えられた。また、スタジオから放送センターとの中継で解説の松岡修造選手が「とんでもないことが起きている 中国ですよ」と述べている。

「23」は、「報ステ」と同様に「ついさきほど終わったばかり」の「速報」として伝えた。映像も「報ステ」とほぼ同様で、日本が負けている第6ゲーム以外のダイジェストを放映し、その後は水谷・伊藤ペアへの試合直後のインタビューが伝えられた。インタビュー内容は「報ステ」と全く同様だった。

「zero」は、「速報」として伝えたが、試合のダイジェストだけでなく、これまでの水谷・伊藤ペアの生い立ちを伝えるドキュメント映像を含めて報じた。

まずダイジェストであるが、第1ゲームから第7ゲームまで全回を伝えている。第4ゲームや最終の第7ゲームでは、繰り返し得点やプレイシーンを流した。途中、2人の出身地である静岡県・磐田市で応援をする人々の映像を、繰り返し挿入しながらのダイジェストだった。

その後は、これまでの水谷・伊藤ペアの生い立ちを中心に伝え、子どもの頃からの「互いを知り尽くす関係」を、それぞれの選手への取材を含めて解説をしている。ドキュメントを通じて、出身地を一とする「2人の関係」の深さと勝利を結びつけて解説を行っ

ていた。また、リオ五輪での業績やその後の評価を説明し、最後に試合直後のインタビュー、メダル授与式のシーンを報じた。

金メダル獲得については「日本卓球界悲願の金メダル獲得」とし、水谷・伊藤ペアについては「年齢差 12 歳の日本を牽引する最強ペア」と評した。伊藤選手については、中国メディアで「大魔王」と呼ばれ恐れられている、といった表現もあった。また、ニュース中では、ニュース中に優勝の瞬間の模様を繰り返し流していた。

さらに、別のニュースを 1 つ挟み、独自の現場からのインタビューを放映し、2 本のニュースを用いてこの出来事を伝えている。ただし、試合直後のインタビューと内容はほとんど変わらなかった。

報道が翌日になった「ニュース 7」は、試合のダイジェストよりも、中国関係者に与えた衝撃をテーマとしたニュース構成によってこの出来事を伝えた。

「中国との激闘を制した」「これまで金メダルを独占してきた卓球王国・中国に大きな衝撃を与えた」「中国の厚い壁を打ち破った歴史的な勝利」「中国の衝撃は相当なもの」「卓球王国を揺るがした今回の金メダル」などの形容とともに、涙する中国選手や、会場で中国国旗をもって「頑張れ」と声を出す中国の関係者、会場で立ち上がれなくなった中国卓球協会劉国梁会長などを映しだした。

水谷選手のインタビューでも、「中国を越えたのが初めてだったので、信じられないという気持ちのほうが大きかった」「これから先も中国の壁は高い」という発言などを取り上げており、その他の番組のインタビューとは異なる発言を切り取っている。中国選手の試合後の取材模様を報じたのも「ニュース 7」のみである。

さらに、CCTV の報道から「中国の国営テレビはさまざまな競技結果で短く触れただけ」と評し、新華社通信ウェブサイトから「まさかの逆転負け」と伝えていると報じた。

報道のタイミングによってニュースの構成が異なることは十分に考えられるが、国際ニュース的な報道として伝えた「ニュース 7」と、スポーツ・ダイジェストとして伝えた民放の各番組の報道の仕方の違いが際立っていたといえるだろう。また、「zero」では、事前に制作してあったと思われるドキュメントを交えて報じ、かつ独自のインタビューを別のニュースとして伝えるなど、本メダル獲得のニュースを重視した姿勢があった。

また、注目競技であるが、放映のタイミング次第では「α」のように報じないケースもある。図表 VIII-11 で触れたメダル獲得に関するニュースの多様性であるが、このようにその他の番組編成との関わりもあることが考えられる。

5.3 沖縄出身者の個人競技でのメダル獲得に関するニュースについて

5.3.1 出来事の概要

レスリング男子の屋比久翔平選手が、沖縄出身の選手として初めて個人競技でのメダルを獲得したという出来事である。3 位決勝戦に臨み、銅メダルだった。また、その後、空手男子形の喜友名諒選手が金メダルを獲得した。

5.3.2 報道の比較

屋比久選手のニュースを伝えたのは、「zero」「報ステ」「23」の2番組である（「α」は放送がなかった）。

番組内放送順位は、「23」が6位と高かったが、「23」はレスリングやボクシングでのメダル・ラッシュのニュースの1つとして伝えており、この出来事は71秒のニュースのうち26秒であった。また、タイトルテロップにもサブタイトルテロップにも「沖縄出身」であることは明示されておらず、ニュース中でも「オリンピック初出場の屋比久翔平選手」と、沖縄出身であることは言及されていない。

一方、番組内放送順位11位で伝えた「zero」はサブタイトルテロップで「沖縄初」と、また、12位の「報ステ」はサブタイトルテロップで「沖縄出身 初の快挙」と明示して放送した。ニュース中でも、「沖縄出身選手」として紹介し、試合のダイジェストの後には、個人種目で沖縄出身選手のメダル獲得が初であることを伝えている。また、「zero」は試合のダイジェストの後に、本人のインタビューの様子を伝えているが、「沖縄で頑張っている高校生や中学生、ちびっ子たちにも夢を大きく与えられた」と語った部分を伝えている。なお放映時間は「zero」が53秒、「報ステ」が69秒と、「報ステ」が若干長かったが、これは競技ダイジェストの編集によるものであった。

なお、沖縄出身の選手のメダルに関するニュースとしては、後の8月6日（金）に空手（男子・形）の喜友名諒選手が金メダルを獲得している。この出来事を伝えたのは、「zero」「23」の2番組であった。詳細は図表VIII-14を参照してほしい。

図表VIII-14：沖縄出身者の個人競技でのメダル獲得に関するニュースの比較

8月3日（火）

番組名	番組内放送順位	ニュース時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
1 ニュース7				
2 zero	11	53 (53)	【タイトルテロップなし】	1)新着 屋比久翔平 沖縄初銅メダル獲得
3 23	6	71 (26)	大会12日目 涙のメダル&57年ぶり快挙	1)レスリング 初出場で涙 リオ女王も涙 2)ボクシング 田中 61年ぶりメダル確定
4 α				
5 報ステ	12	69 (69)	レスリング男子 メダルへ豪快！	1)屋比久翔平 沖縄出身 初の快挙 レスリング男子 東京五輪

8月6日（金）

2 zero	6	161 (161)	新着 空手・喜友名が「金」 沖縄出身初	1)新着 空手・喜友名が「金」沖縄出身で初
3 23	6	477 (96)	空手・男子 形 喜友名 諒 沖縄初の五輪金メダル	1)空手 喜友名 諒 沖縄初の金メダル！ 2)レスリング 向田真優 大逆転の金メダル！ 3)スポーツクライミング Wメダル獲得！野中銀メダル 野口銅メダル 4)卓球 日本男子が銅メダル水谷が決めた！ 5)バスケットボール 快挙！日本女子が決勝進出 6)サッカー 日本男子 涙 53年ぶり銀メダルならず

5.3.3 やや唐突な文化的な背景に関するイメージの編集

喜友名選手について、「23」は、各種競技結果を伝える477秒のニュース（順位6位）の一部（96秒）で、この出来事を伝えた。この際は「空手の喜友名諒選手は沖縄県出身そのふるさとに初の金メダルを届けました」「空手発祥の地 沖縄出身の喜友名」と紹介した。また、テロップには「沖縄県勢初 金メダル」と示された。なお、先のレスリングのニュースよりもやや放映時間が長いのは、競技内容によるところと、選手インタビューで回答までに考え込む喜友名選手を映し出したからと思われる。

「zero」は、放映順6位で161秒のニュースを伝えている。アナウンサーが「沖縄県出身者では初めての金メダリストとなりました」と紹介し、競技ダイジェストが放映され、その後に、1度目の本人のインタビュー、喜友名選手に関する短いドキュメントが流され、恩師のインタビュー、2度目の本人のインタビューが流れるという構成で伝えられた。

1度目のインタビューでは、メダル獲得を母親に最初に報告したと涙ながらに語る選手の模様が用いられ、母親が2年前になくなったこととの解説が流れた。そして、これに続くドキュメント映像では、競技を始めた子どもの頃の選手の映像が流れ、恩師のもとで身体鍛錬をする選手が用いられるなど、周囲の選手へのサポートの様子が伝えられている。

ところで、この間に、沖縄舞踊で身体の動きに磨きを掛けた、として舞踊を踊る選手の映像が用いられている。また、ライオンの動画を見て「目力」を養ったとされるインタビューが用いられた。

恩師のインタビューでは「先生孝行だ」という言葉が伝えられ、最後に「沖縄の子どもたちにも、夢をあきらめず追いかけていけば、たしかに達成できると知ってもらえた。大きな目標、希望を持って自分の道に進んでほしい」という本人のインタビューが流れ、ニュースは終了するが、その際の映像はメダルや勝利の花束とともに亡き母親の遺影を掲げる選手であった。

このように、選手をサポートする家族や恩師などに孝行する選手の物語が紡がれているが、そのイメージと映像構成の流れからは、物語の舞台としての故郷・沖縄文化の存在がやや強引に、またやや唐突に挿入されていることが分かる。試合のダイジェストでは「世界選手権3連覇 金メダルに最も近い男」といったこれまでの業績や競技への評判も示しているが、こうした文化的な背景に関するイメージの挿入からは、一方では、国内の選手の文化的な多様性を示そうとした試みともとれるが、他方では、本人の努力と試合後の母を思う涙を、出自と関わらせざるを得ない報道の姿勢についても浮かびあがってくる。

6 五輪と関連する国際関係に関するニュースについて

ここでは、4つの出来事を事例として取り上げる。

まず1つ目は、韓国のムン・ジェイン大統領が開会式の出席を見合わせたというニュースである。コロナ禍で各国の首脳クラスの開会式に合わせた来日見送りが続出するなかで、隣国の韓国からもやはり首脳の来日は実現しなかった。この頃、来日する首脳は20人を下回るだろう、との報道も相次ぎ、五輪外交については成果が危ぶまれていた。

2つ目は、ウガンダ出身選手の失踪に関するニュースである。一般的には国際関係のニュースとしては捉えられておらず、本研究会でもニュースの分野は「300 社会」にコーディングされたニュースである。しかし、五輪をきっかけに来日した選手が、母国での生活の窮状を理由に、日本で働きたいとして失踪したこの出来事は、開催国と参加国の経済的格差の存在を浮き彫りにし、またそれによる経済的な国際人流を引き起こした事例であることから、国際関係を示すニュースであるともいえるだろう。

3つ目は、ベラルーシ選手が亡命を希望したニュースである。開催国に来てからも強権的に選手団を管理しようとしたベラルーシ選手団であるが、そのやり方に不満を持った選手が SNS に書き込んだ内容を、国営通信社が問題視して、ベラルーシ内で批判が高まり、選手が亡命を希望したという出来事であった。背景にあるベラルーシの国家体制や民主化弾圧の問題、メダルを国家の威信として捉える姿勢、ヨーロッパ最後の独裁者といった表現で語られるルカシェンコ大統領の存在などが伝えられた。選手はポーランドに亡命が決まるが、まさに多国間関係が開催地東京を舞台に展開し、グローバルメディアとなった SNS での情報環境が東京におけるトランスナショナルな人流に影響を与える事例である。

4つ目は、海外メディアが東京五輪をどのように伝えているか、というテーマで報道したニュースを取りあげた。第IX章で整理したように、開催地である東京では五輪を機とした世界への情報発信を目指していた。多くの海外メディアが集まる五輪は、格好の国際的な PR 活動の機会ともなるからだろう。

五輪外交という言葉が象徴するように、五輪開催地は、スポーツ競技の会場であるとともに、参加各国の思惑が織りなす国際関係の展開する場でもある。こうした国際関係については、東京五輪を伝えるニュースでは、どのように取り上げられていたのだろうか。

6.1 韓国のムン・ジェイン大統領が開会式の出席を見送ったニュース

6.1.1 出来事の概要

韓国のムン・ジェイン大統領が、7月19日（月）に、開会式に合わせて検討していた日本訪問を取りやめたことを発表したという出来事である。理由として、首脳会談で成果を出すのは不十分だと述べたという。

6.1.2 報道の比較

この出来事を伝えたのは、「ニュース7」「zero」「α」「報ステ」の4番組である。ただし、詳報したのは「ニュース7」のみで、それ以外の番組は、番組内放送順位が低く、報道時間も短いなか、出来事を短信で伝えたのみである。

「ニュース7」は、韓国大統領府の声明（「協議は友好的な雰囲気の中で行われ、かなりの接近があった」が、「諸藩の事情を総合的に考慮して決めた」と発表）を伝えるだけでなく、大統領府関係者への取材から「ソウル駐在の総括公使がムン政権の対日外交姿勢に不適切な発言した」ため「国民感情を考慮しなくてはならなかった」と、非公式のもう1つの理由についても伝えている。また、日韓関係の現状を「冷え込んでいる」と評した上で、今回の来日で韓国側が期待していただろう成果を2点（福島第1原発の処理水放出問題および韓国向け輸出管理の厳格化）を挙げた上で、韓国でも任期満了前にムン・ジェイン大統領が日韓関係を改善できるかどうかについての期待があったと伝えている。これに加えて、菅元首相のコメントを紹介した。

その他の番組では、韓国大統領府の声明や菅首相のコメントを一部紹介するのみで、日韓関係などの背景などの報道はなかった。なお「α」では、韓国大統領府が、「オリンピックの成功を祈ります」とコメントしたことを伝えている。また、見出しは「zero」のみ「断念」で、その他の番組は「見送り」となっている。

図表Ⅷ-15：韓国のムン・ジェイン大統領が開会式の出席を見送ったニュースの比較

7月19日（月）

番組名	番組内放送順位	ニュース時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
1 ニュース7	5	186 (186)	韓国ムン大統領 訪日見送り	1) 韓国大統領 訪日見送り "首脳会談で成果出すには依然として不十分" 2) 韓国大統領 訪日見送り 菅首相 "一貫した立場で 意思疎通 行いたい"
2 zero	20	30 (30)	【タイトルテロップなし】	1)today 韓国・文大統領が訪日"断念"
3 23				
4 α	12	35 (35)	「成果見込めず」 韓国 文大統領 訪日見送り	1)韓国 文大統領 訪日見送り 「成果見込めず」
5 報ステ	10	45 (45)	【タイトルテロップなし】	1)文大統領 五輪で訪日見送り 日韓首脳会談 実現せず

6.2 ウガンダ出身選手の失踪に関するニュース

6.2.1 出来事の概要

ウガンダの男子ウェイトリフティング選手のジュリアス・セチトレコ選手が、合宿先の大阪・泉佐野市のホテルを抜け出して行方不明になり、その後、2021年7月20日（火）に三重県で保護され、帰国したというニュースである。

6.2.2 報道の比較

この出来事を伝えたのは、「ニュース7」「zero」「23」「報ステ」の4番組である。「α」は、このニュースは扱わなかった。詳報したのは「zero」のみであった。

このニュースの放映日は、番組によって異なっており、7月20日(火)については保護されたことを伝えるニュースで「ニュース7」「zero」「報ステ」が、7月21日(水)については帰国したことを伝えるニュースで「zero」「23」が報じた。「zero」は2日ともに報じている。

番組内放送順位は、7月20日(火)の「ニュース7」が2位、「zero」が3位、「報ステ」が3位となっている。番組内放送順位は高いが、「ニュース7」と「報ステ」は複数のニュースをまとめて伝えるコーナー中で登場した短信のニュースで、「zero」のみが詳しく報じている。また、7月21日(水)は、「23」で10位、「zero」で17位だった。

ニュース時間は、「報ステ」が最も長く823秒、「ニュース7」が643秒、「zero」(7月20日(火))が176秒、「23」が45秒、「zero」(7月21日(水))が27秒となっている。しかし、「ニュース7」と「報ステ」では、このニュースに限るならば、「ニュース7」が31秒、「報ステ」が60秒であった。

タイトルテロップから分かるように、「ニュース7」と「報ステ」は、五輪開幕の「直前」に起きている出来事の1つとして取り上げている。「ニュース7」は、その出来事をまとめて「大会関係者 新たに9人陽性」というタイトルテロップを付けており、海外の選手のコロナ感染や濃厚接触者を中心としたニュースのなかで取り上げた。「報ステ」も同様に「関係者の感染相次ぐ」というというタイトルテロップを付けている。

図表Ⅷ-16：ウガンダ出身選手の失踪に関するニュースの比較

7月20日(火) (「23」の2本目は7月21日(水))

番組名	番組内放送順位	ニュース時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
1 ニュース7	2	643 (31)	五輪 あすから競技スタート 大会関係者 新たに9人陽性	1)東京五輪まで3日 あすから始まる競技も ソフトボール 2)東京五輪まで3日 あすから始まる競技も サッカー女子 3)東京五輪まで3日 所在不明のウガンダ選手 三重県で見つかる 4)東京五輪まで3日 選手村で新たに選手が感染 初めて大会ボランティアも・・・ 5)東京五輪まで3日 サッカー 南アフリカ代表が練習 濃厚接触者18人で日本戦は？ 6)東京五輪まで3日 "6時間前の検査陰性で出場" 専門家「二重に」「試合後も」 7)東京五輪まで3日 IOC総会でバッハ会長 "平和・連帯のメッセージ送る" 8)東京五輪まで3日 各地で直前準備 進む "楽しみ"感染が心配" 9)東京五輪まで3日 開幕式の作曲担当 辞任 五輪相"大会精神 共有に努力"
2 zero	3	176 (176)	【タイトルテロップなし】	1)新着 "不明"ウガンダ選手を保護・・・涙流し
	17	27 (27)	【タイトルテロップなし】	1)today 新着 ウガンダ選手・・・成田空港を出発
3 23	10	45 (45)	新着 ウガンダ選手 帰国へ	1)新着 保護されたウガンダ人選手 帰国へ
4 α				
5 報ステ	3	823 (60)	開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ	1)濃厚接触者18人 南ア代表は・・・ 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ 2)失踪のウガンダ選手 三重で発見 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ 3)菅総理「安心安全の大会」決意 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ 4)選手村に滞在...チェコ代表感染 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ 5)日本と対戦 サッカー南ア代表は・・・ 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ 6)選手村に滞在...大会への不安は 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ 7)12~15歳対象のワクチン接種も 東京 新規感染 1387人 8)くつきやすい→重症化 新たに判明 デルタ株の"特徴" 9)北海道"まん延防止"を要請 新たに判明 デルタ株の"特徴" 10)陽性者の"情報開示"必要では 開幕まで3日 関係者の感染相次ぐ

実は、詳報した「zero」の場合も、このニュースの前後は、選手や関係者のコロナ感染に関するニュースになっている。

「zero」のニュース映像は、ウガンダ選手団の現在の様子を映すなどしてから、ジュリアス・セチトレコ選手の写真を何度か取り上げながら、出来事の実事関係を伝えるニュースである。地図を示すなどしながら、行方不明だった選手の足取りを紹介している。これに市民の声3名分が加わったもので、論評のような姿勢はないが、市民の声として、支援者が選手の行動に対する反省を求めるコメントした以外では、「コロナが広がっていくのが非常に心配（泉佐野市民 女性）」や、「コロナで騒がれているのに その辺りがよく分からないですね どういう管理していたのか（泉佐野市民 男性）」のように、コロナ感染に関する不安や管理上の問題を語っている。

つまり、この出来事は、五輪アスリートの行方不明事件というよりは、海外から流入し管理できずに広まっていく何かに対する不安が表象されているといえるだろう。たしかに、ウガンダの選手は来日選手としては初の新型コロナの陽性反応が出たことが別途報道されていたのである（第IX章参照）が、「ニュース7」と「報ステ」の場合でも、前後のニュースとの文脈から出来事が同様に意味付けられており、まさにステレオタイプの認識の在り方を示している。

なお、7月21日（水）のニュースは、どちらも成田空港で選手を映し、帰国する旨を伝えるニュースであった。

6.3 ベラルーシ選手が亡命を希望したニュース

6.3.1 出来事の概要

ベラルーシの陸上女子のクリスチナ・チマノウスカヤ選手が、羽田空港で亡命を希望し、ポーランドが受け入れた出来事である。ドーピング未検査で来日できなかった選手の代わりにコーチが本人に無断でリレー参加登録をしたことに反発した選手が、ヘッドコーチへの不満をSNSに書き込むなどしていた。これに対し、ベラルーシの国営通信社が「非常識」「国民が怒り」などと伝えた。選手は「政権批判だ」として強制送還されそうになったと話している。都内のポーランド大使館を訪れて、亡命が決まった。

6.3.2 報道の比較

このニュースは、選手が亡命を希望した8月2日（月）に報じられてから、本人へのインタビューや出発・到着の様様、到着後のインタビュー、ベラルーシ政権の対応にいたるまで、5日に渡って連日報道されている。

図表VIII-17のとおり、番組内放送順位も比較的高く、単独ニュースとして扱われて、放映時間も長くなっている。

出来事が起きた8月2日（月）のニュースを中心にみていくと、この日の放送がなかった「α」以外は、全ての番組で報じられている。放映時間の短い「23」は、出来事の

現状のみを伝えているが、その他の番組では、ベラルーシ政権に批判的な態度を含めて、詳細な報道を行っている。

「ニュース7」は、ベラルーシの国営通信社の伝え方をふまえて、選手の SNS 投稿が「国家への裏切りだと印象づけたい狙い」だと推測している。また、ルカシェンコ大統領の発言をふまえて、コーチにプレッシャーがあったとみられるとも推測をふまえて報じた。

「zero」は、ベラルーシを紹介する際にルカシェンコ大統領を「ヨーロッパ最後の独裁者」として評し、以前はベラルーシの五輪委員会の会長を務めていたことも伝えている。出来事の経緯だけでなく、選手が以前から政権に批判的な SNS での投稿をしていることも弾圧の背景として伝えた。取材からは、日本在住のベラルーシ人の女性への電話インタビューや選手を支援するベラルーシの団体のコメントを取り上げた。

「報ステ」は、出来事の経緯をもっとも詳しく伝えている。また、ベラルーシを「ルカシェンコ大統領が 1995 年から君臨する独裁国家」と評し、現在のオリンピック委員会のトップは長男であることも伝えた。また、CNN 記者の報道やポーランド外務次官のコメントに加え、コメンテーターの解説として、ルカシェンコ大統領がメダルによって国威発揚を狙い、「勝てば全てが手に入り、負ければパンくずを探し回らなければならぬ」といった言葉で選手やコーチに圧力をかけたとして、アスリートの思いや人生を踏みにじるやり方で許されないと伝えている。また、ヘッドコーチと選手が交わしている会話の録音と思われる音声を詳細に扱った。ヘッドコーチからは「クモの巣に絡まったハエのようにもがけばもがくほど抜け出せなくなるからだ 君はおろかなミスを犯した」「批判コメントを出した君がいけなかった 君は全国民の前で批判した」「残念ながら私たちのレベルで解決する問題ではないのだ」といった言葉が出て、選手の泣き声も録音されている。

ベラルーシを紹介する際には、民主化闘争の様子の映像が写されるが、政権が暴力で抑え込もうとしている映像が用いられている（「zero」「報ステ」）。ルカシェンコ大統領の映像でも、大統領の発言に頷く側近の映像（「ニュース7」）や大統領を囲む選手団の映像（「報ステ」）など、いわゆる「取り巻き」を映して大統領の権力の強さを強調している。

取材では、選手の SNS 動画や録音音声、選手を保護する警察、亡命先のポーランド大使館のコメントなどが用いられ、亡命者の立場から報じられていることが明白で、独裁政権の暴力から東京を訪れたアスリートが民主的に守られたとされる報道姿勢が貫かれているといえる。

図表Ⅷ-17：ベラルーシ選手が亡命を希望したニュースの比較

8月2日（月）

番組名	番組内 放送順位	ニュース 時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
1 ニュース7	6	125 (125)	【タイトルテロップなし】	1)ベラルーシの選手が亡命希望 “強制送還されそうに” ポーランドが受け入れ
2 zero	2	220 (220)	新着 家族も“脱出” ・・・選手「亡命」なぜ	1)新着 家族も“脱出”・・・選手「亡命」なぜ
3 23	9	50 (50)	ベラルーシの陸上選手 亡命	1)ベラルーシ選手 ポーランド亡命受け入れ
4 α	放送なし			
5 報ステ	3	374 (374)	速報 ベラルーシ選手 ポーランドに亡命へ	1)速報 「同意なく日本から連れ出される」 亡命希望のベラルーシ選手を単独取材 2)ポーランド”人道的ビザ”発給亡命希望のベラルーシ選手を単独取材 3)SNSで批判…本国で問題に 亡命希望のベラルーシ選手を単独取材 4)”強制帰国”大統領の判断か 亡命希望のベラルーシ選手を単独取材 5)大統領「負ければバンくずを…」 陸上ベラルーシ選手亡命へ

8月3日（火）

3 zero	2	147 (147)	亡命を希望 「今後も五輪 に・・・」ベラルーシ選手	1)ベラルーシ選手 “亡命”理由語る・・・「今後も五輪に」
--------	---	--------------	------------------------------	-------------------------------

8月4日（水）

1 ニュース7	9	44 (44)	【タイトルテロップなし】	1)亡命先のポーランドへ出発 ベラルーシチマノウスカヤ選手
2 zero	21	25 (25)	【タイトルテロップなし】	1)today 新着 “亡命”ベラルーシ選手・・・経由地到着
5 報ステ	8	73 (73)	【タイトルテロップなし】	1)亡命のベラルーシ選手出国 安全のために搭乗便を直前に変更

8月5日（木）

3 23	10	81 (81)	新着 ベラルーシ選手 単独インタビュー	1)新着 亡命ベラルーシ選手 単独インタビュー
4 α	15	68 (68)	速報 亡命先のポーランドで 会見 ベラルーシ選手「日本 政府と警察に感謝」	1)速報 ベラルーシ選手「日本政府と警察に感謝」 亡命先のポーランドで会見
5 報ステ	20	47 (47)	速報 ベラルーシ選手 亡命先で会見	1)速報 祖母からの電話で…亡命決定

8月6日（金）

2 zero	16	29 (29)	【タイトルテロップなし】	1)ルカシェンコ大統領が初言及 ベラルーシ亡命選手は「操られていた」
4 α	5	59 (59)	速報 亡命先のポーランドで 会見 ベラルーシ選手「日本 政府と警察に感謝」	1)today 選手亡命にベラルーシ大統領が・・・

6.4 海外メディアは東京五輪をどのように伝えているか

6.4.1 報道の比較

ここでは、海外メディアの動向を伝えるニュースをコーディングシートから全て抜粋し、それぞれのニュース内容を整理した。

関連のニュースは6本で、7月22日（木）、23日（金）、30日（金）にあった。番組内報道順位は表Ⅷ-17のとおりであるが、テーマの特性から特に傾向は見当たらない。ただし、7月22日（木）のニュースは、本章2.2で扱った「小林賢太郎氏の開会式演出担当解任に関するニュース」に対する海外メディアの反応に焦点をあてた報道だった。

7月23日（金）には、開会式を伝えるニュースのなかで、海外メディアが開会式をどう伝えるか、また、開会にあたり海外メディアが注目する選手は誰かといった内容のニュースがあった。競技が開始されている7月30日（金）には、主にメディア関係者の感染対策に対する考え方などを伝えるニュースがあった。

図表VIII-18：海外メディアが伝える東京五輪の関連ニュースの比較

7月22日（木）					
番組名	番組内 放送順位	ニュース 時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ	
3	23	2	295 (295)	"退場ドミノ" 海外メディア 「呪われた大会」	1)"退場ドミノ" 海外メディア「呪われた大会」
5	報ステ	2	628 (40)	速報 組織委 「開会式は予定通り実施」	1)速報 「予定通り実施の方向で準備」 五輪開会式 演出担当を解任 2)ホロコースト“やゆ”人権団体が批判 五輪開会式 演出担当を解任 3)小林氏が謝罪「言葉選びが間違い」 五輪開会式 演出担当を解任 4)海外メディア「崩壊が止まらず」 五輪開会式 演出担当を解任 5)速報 「予定通り実施の方向で準備」 五輪開会式 演出担当を解任 6)速報 開会式“一人で演出部分なし” 演出担当を解任「予定通り実施へ」 7)国際社会の反感強く…前日の決断 五輪開会式 演出担当を解任
7月23日（金）					
2	zero	19	62 (62)	新着 五輪「開会式」 海外メディアは	1)新着 五輪「開会式」海外メディアは
3	23	9	414 (414)	ついに開幕! 世界のメディアは誰に注目?	1)ついに開幕! 世界のTV局は(日本の国旗)の誰に注目? 2)ついに開幕! 世界のTV局を全力取材! 3)ついに開幕 土曜から本格的に競技開始!
7月30日（金）					
2	zero	13	139 (139)	【タイトルテロップなし】	1) スマホのなか 海外メディア「バブル」取材は・・・ 2) スマホのなか 海外メディア「コンビニ」頼りに
5	報ステ	4	334 (334)	五輪と感染拡大 …海外メディアは	1)CNNは“開催”をどう伝えた? 五輪と感染拡大…海外メディアは 2)「バブル内は抑制」との評価も 五輪と感染拡大…海外メディアは 3)日本で取材して感じたこと 五輪と感染拡大…海外メディアは 4)外国への情報発信の重要性 海外記者が語る「五輪と感染拡大」

6.4.1 海外メディアとは

図表VIII-19は、6つのニュースで取り上げられた海外メディアの一覧である。

14か国のメディアが取り上げられている。メディアの種類はアメリカが最も多く4種類で、以下、イギリスとフランスが3種類、韓国、ドイツが2種類、などとなっている。通信社や新聞社では、ニュース内容を引用することが、またテレビ局で記者や解説者などスタッフがインタビューに応じたり、コメントを述べたりすること（表中ではスタッフコメント）が多くなっている。

傾向としては、欧米志向が強い傾向で、アジアやアフリカ、南米などのメディアは取り上げられておらず、取材先としての海外メディアに多様性があるとは言いがたい傾向だ。

図表Ⅷ-19：取り上げられた海外メディアの一覧

アメリカ	NBC	放送内容
アメリカ	AP 通信	ニュース内容
アメリカ	CNN	スタッフコメント
アメリカ	ワシントンポスト	ニュース内容
イギリス	ガーディアン紙	ニュース内容
イギリス	BBC	スタッフコメント
イギリス	ロイター	ニュース内容
フランス	レキップ紙	スタッフコメント
フランス	France tv	スタッフコメント
フランス	リベラシオン	ニュース内容
韓国	聯合ニュース	ニュース内容
韓国	KBS	スタッフコメント
ドイツ	ヴェルト	ニュース内容
ドイツ	非明示	ニュース内容
ベラルーシ	RTRC	スタッフコメント
オランダ	NOS	スタッフコメント
チェコ	CZECH TV	スタッフコメント
スロベニア	エキバ紙	スタッフコメント
キューバ	ICRT	スタッフコメント
フィンランド	非明示	スタッフコメント
ポルトガル	非明示	スタッフコメント
ニュージーランド	非明示	スタッフコメント
オーストラリア	非明示	スタッフコメント

6.4.2 開会式当日の海外メディアの声

7月23日（金）の「zero」では、開会式についての海外メディアのコメントが紹介されている。

ニュース冒頭では、アナウンサーが海外メディアは開会式を「控え目」と表現したとまとめている。

具体的には、アメリカ NBC は「“まったく異なるオリンピック”、“見たこともないような開会式”」、アメリカ AP 通信は「カラフルではあるが妙に落ち着いたセレモニー」、イギリス・ガーディアン紙「非常に控え目なセレモニー」、イギリス BBC 「観客のいない空っぽなスタジアムで、アスリートはどう感じているのかという視点で見ている」な

どと無観客での開会式を評した。

一方、韓国・聯合ニュースからだけは「開会式当日までも日本国民に愛されなかった大会」と五輪開催そのものについての批判的な論評を取り上げている。

7月23日（金）の「23」は、国際放送センターの紹介という形式を取っている。国際放送センターで出会った海外メディアのスタッフにさまざまなインタビューを行っているのだが、ベラルーシやチェコのメディアのスタッフとは、五輪とはほとんど関係のない世間話（ハローは日本語で何というか、スーツケースに国名が日本語で書いている）をしただけだった。オランダ NOS（オランダ放送協会）やイギリス BBC のスタッフが、コロナ禍の五輪やテレビオリンピックに関するコメントをしたのとは異なっている。

その後は、イギリス BBC とフランス France tv、チェコ CZECH TV、韓国 KBS のスタッフに「知っている日本人選手」を尋ねている。韓国 KBS のスタッフは野球中継の担当アナウンサーで、次々と日本人選手の名前が挙げるとともに、「韓国より強いのでは」とも述べた。

このニュースは、開幕直前の祝祭的な雰囲気の前に 楽し気なバックステージを紹介するようなニュースであった。バラエティ番組風の演出で、キューバのスタッフに、日本人の選手について尋ねたら逆にキューバの選手を宣伝された、というような雰囲気の演出が施されていた。このようなインフォテイメントのニュースではあるが、旧東欧の国のスタッフとは無関係の話をし、韓国のアナウンサーから日本のほうが強いとのコメントを取り上げるなど、実際の国際関係の現状が、取り上げる海外メディアの伝える内容に反映し、国際関係を含意したような役割モデルが割り振られているようでもある。

6.4.3 競技開催期間の海外メディアの声

7月30日（金）に「zero」が海外から来日したメディア関係者を取材するドキュメントを報じている。ニュージーランドから来日した女性リポーターからは、「取材できる素晴らしい」、「感染対策を徹底した取材を続けている」といった声が、また男性カメラマンからは「“バブルのなかだけでも取材できるのはとても特別なこと”」、「不便だが感謝している」といった声がニュースとなった。この2人は、コンビニで食べ物の種類が多いことを褒めている。

オーストラリアのメディア関係者は、洗濯機が日本語表記のみで洗剤の入れ方が分からなかったが、セブンイレブンで助けられたという。翻訳アプリが便利で、日本人は「“いつも助けてくれる”」、「とても礼儀正しく」、「フレンドリー」だという。

「3 新型コロナウイルスに感染した選手に関するニュースについて」の節で、この時期には五輪関係者のコロナ感染者数が最多となるなど、社会からは厳しい声が伝えられていることを報じているが、報道が伝える社会の実態とはやや乖離した不自然な「おもてなし」の存在が伝えられているとも見える。

同日の「報ステ」では、アメリカの CNN の日本支局長が「オリンピックが結果とし

て増加につながっている可能性はある」とコロナ禍に対する五輪の影響について語っている。また、「多くの国でロックダウン」、「日本政府の対策は主に飲食店などへの要請だけ」とコロナ禍の対応について批判したイギリス・ロイターのニュースを引用している。

一方、アメリカ・ワシントンポストの記事からは「東京の感染者は過去最多を記録したがバブル内の感染状況はずっと抑えられている」といった内容や、フランス・レキップ紙の取材で「スポーツ記者は早朝から深夜まで働きづめ」、「市民と接触する時間はない」、「大半の関係者が公共交通機関を利用していないはず」といったコメント、スロベニア・エキバ紙の記者からは、「新たな感染の波が来ているだけで特別なことではない」といったコメントを取り上げている。

そして、これらを並置して論評はせずに、「これまで大会関係者の感染は（累計）225人確認されています」（今日は過去最高の27人）」と感染者数を伝え、さらに「陽性率で見ると0.02% 空港権益検疫では0.08%という状態（単純比較はできないが）バブルの外側 陽性率 12%」と国内の現状と五輪関係者の比較を行った。

期間中は「報ステ」のみが感染と五輪との関係についての海外メディアの考えを報じているが、海外メディアが日本国内の現状を批判するようなニュースはあまり伝えられていない。

6.5 「他画自賛」のための海外メディア利用

ムン・ジェイン大統領の訪日見送りは、「ニュース7」のみが詳報していた。「ニュース7」では、ベラルーシ選手の亡命ニュースでも、対外関係を評して、出来事の背景を推測しながら伝える手法が取られており、ほぼ同じ構造のニュース作りがなされていることから、こうした報道のあり方はNHKの特徴ではある。しかし、コロナ禍で五輪外交が不調であることが分かっていたとはいえ、民放ニュース番組の無関心さが際立っているようでもある。

一方では、ウガンダ出身の選手の失踪を新型コロナの蔓延に投影してステレオタイプ的に捉えるような報道姿勢があるかと思えば、他方では独裁国家からの亡命者についてはメディアが西側諸国の価値観を強調して体現するかのよう大きく報じる・・・こうした報道のあり方から浮かび上がる国際関係が織りなす場としての開催地は、五輪によってよりグローバルに変化した日本の姿ではなく、従来の世界のなかの日本そのものであるかのようなようである。ときに海外メディアを利用し、自画自賛ならぬ「他画自賛」のために用いる報道姿勢も合わせて浮かんでくる。

7 東京五輪の理念やコンセプトと関連するニュースについて

本章の最後の節では、五輪の理念に関わるニュースを検討する。IX章にも記してある

が、東京五輪のコンセプトのなかでも「多様性と調和」は、もっとも知られるところであろう。そこで「ダイバーシティ」を体現体現としているといってもよい出来事や選手を検討し、「復興五輪」「池江璃花子選手」「大坂なおみ選手」に関するニュースについて分析を行うこととした。「トランスジェンダーの選手の活躍」や「難民選手団」についての分析も検討したが、トランスジェンダーの選手の報道は2回のみ、難民選手団の報道は1回のみで、本節で設定した3回以上で取り上げたニュースを分析するという条件に合わなかった。

7.1 復興五輪はどう伝えられたか

東京五輪の招致が決まった後の2014年中盤には組織委に復興事業チームが作られ、東京五輪のコンセプトを代表するイメージともなった復興五輪であるが、準備が進むにつれて、その特色が次第に色あせていった、との評も少なくない。これをテーマとした五輪開催期間中のニュースはどうであっただろうか。

「復興五輪」についてのニュースを報じたのは、「zero」（7月21日（水）に2回、7月23日（金）に1回）と、「23」（7月21日（水）に1回）のみである。開催期間中は、「復興五輪」が話題になることは、ほとんどなかったということであろう。

図表VIII-20のように、番組内放送順位は比較的に高い傾向にある。また、開会式の前より既に競技が開始されていたソフトボールの会場が福島県であったため、その競技結果の関連とともに伝えられており、放映時間はやや長めとなっている。

図表VIII-20：復興五輪に関するニュースの比較

7月21日（水）

番組名	番組内放送順位	ニュース時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
2 zero	2	319 (103)	【タイトルテロップなし】	1) 福島で「開幕」 ソフト上野・・・13年ぶり金へ 2) 復興五輪 福島でスタート「無観客」でも
	14	62 (62)	【タイトルテロップなし】	1) # どこでも五輪 「復興芝生」夢の舞台へ
3 23	4	721 (240)	競技スタート 新着 コロナ禍の五輪 どこで観戦?	1) 五輪競技スタート 新着 スタジアムは「無観客」...どこで観戦? 2) 五輪競技スタート 自宅観戦で人気「ワンハンドグルメ」 3) 五輪競技スタート 福島で初勝利も...「復興五輪」どこへ 4) 五輪競技スタート 復興五輪のはずが...

7月21日（水）の「zero」の1つ目のニュースは、福島県のあづま球場が震災当時避難所として利用されていたことを紹介しているニュースである。ただし、ニュース構成の点からは、基本的には、女子ソフトボール選手のドキュメントに試合のダイジェストが加わったソフトボール競技に関するニュースであった。

「復興五輪」と関連するニュースの伝え方としては、直接的には「復興五輪と位置付けられ、福島での競技スタートとなった今大会」といったテロップがあったことや、当時の避難所を「のべ11万人におよび避難者を受け入れてきた場所」として紹介し、上

皇夫妻が訪問する映像を流した点が挙げられる。また、間接的には、始球式に地元の中学生在が選ばれたことや、地元の小学生が育てた朝顔に応援のメッセージがあることなどを示した点が挙げられる。

その後も宮城スタジアムの有観客で行われる試合の様子が伝えられたが、直行直帰の実際や誘導などの「有観客」の状況報道が優先で、「復興五輪」とは無関係のニュースとなっていた。

7月21日（水）の「zero」の2つ目のニュースは「復興芝生」のニュースである。「今夜は被災地の芝生」についてのニュースであるとして、明白に「復興五輪」関連のニュースであることを示している。

「復興芝生」は、サッカー女子の試合が行われた宮城スタジアムのフィールドの芝生のこと、被災地宮城県・山元町で育てられたことが解説されている。映像は、しばしば芝生の生産農家を映し出し、「津波で荒れた土地でも育つのではと考えて栽培を始めた」といったように農家の言葉が伝えられている。「水はけ 耐久性に優れる」といったテロップも流れた。

芝生農家の集合写真とともに下記のようなアナウンサーとゲストの会話が図表VIII-21のように続く。

図表VIII-21：「復興芝生」に関するアナウンサーとゲストの会話

アナウンサー：これほんとに世界中のアスリートに対して、被災地からの最高のおもてなしですよ

ゲスト：世界でこれだけ注目される機会が復興の思いを伝えられるというのはすごい素敵なことで、だからこそ実際にこの場所でより多くの人に今の東北の姿を見てほしかったなというのは思います

アナウンサー：この芝生を育てた方は、「震災のあと助けてくれた海外の方々に 頑張っている姿を伝えたい」という風に話していました。

7月21日（水）の「23」のニュースは、「どこで どのように 観戦しますか」との問いかけでニュースが始まり、無観客のサッカー女子の予選ダイジェストやスポーツバーでの観戦の様、自宅での観戦のあり方などが伝えられる。次に、自宅観戦用のテレビやグルメメニュー紹介のニュース、サッカー女子のダイジェスト、福島でのソフトボールのニュースと続き、その後に「復興五輪」の語を用いたテロップが用いられた。しかし、直後に映し出される「遠く離れたところから声援する子供たち」は群馬県太田市の保育園の様であった。この次に、福島県郡山市の高校が映し出される。この高校にはソフトボール部があり、部員が観戦予定であったという。ただし、報道は、無言でメ

ガホンを持つ高校生や、それでもホームランの際はつい声を出してしまうことなど、無観客で試合が行われたインパクトを伝えるもので、復興五輪の色合いは伝えられなかった。

さらに、ニュースは、ソフトボールのニュースの際に、福島競技場周辺を映像で写し出すが、無観客の会場周辺の映像を用いて、「一般の方ふくめて誰もいません 近くで競技が行われているとは思えませんね」とキャスターがコメントした。近隣の住民の声も取材しているが、「実感ないね 無観客になったし」という発言を取り上げた。こうした無観客の競技の様子は、競技場はほとんどすべて同様であるが、都心部で無観客で行われた開会式に新国立競技場周辺などで人だかりができていたことを伝えるニュースとは異なり、無人の様相が際立っている。

さらに、ニュースは福島県内の桃の生産者や桃の直売所などを映し、「大会期間中外国の駐日大使を招いて農産物の安全性をPRする予定でしたが、すべて中止に。生産者からは戸惑いの声が・・・」といったテロップを流した。この生産者は「大臣さんとかえらい人が「復興五輪」と言うだけで、俺らには何もピンとこない」と述べており、市民の声を用いて間接的に表面だけの「復興五輪」について批判をしているといえる。

「報ステ」ではコメンテーターが出来事を評することは多いが、「23」でもコメンテーターの星浩氏がコメントを加えた。「復興五輪という性格もかすんでしまって、そういう意味では被災地の人たちからすると、なんとなく積善としない幕開けということになった」などと述べている。アナウンサーは、これに対し「当初の構想を考えると本当にここに至るまでにいろいろなことがあったなと振り返るんですけども・・・」と述べた。

開会式のあった7月23日（金）の「zero」のニュースでは「ビクトリーブーケ」を作る東京の制作現場を伝えた。「ビクトリーブーケ」とは、選手にメダルとともに渡される花束のことで、被災地の花で作られることになっていた。この東京での制作現場をドキュメントで伝えたのがこのニュースである。

ニュースでは、「岩手のリンドウ」、「宮城のひまわり」、「福島のトルコギキョウ」が使われていることが説明された。

また、被災地の生産者へのオンライン取材が行われ、「震災があつて、東電の事故があつて、大変な思いをした福島県なんですけど、感謝の気持ちを伝えるチャンスをいただけたな」という発言が伝えられた。映像ではトルコギキョウのハウス栽培の様態などが流れている。ニュースでは、トルコギキョウの花言葉が「希望」であることも紹介された

ニュースの終わりに、あらためて東京の制作現場から、「生産者さんが丁寧に心込めてここに（適温で）届けてくれたものを自分たちも（花を）傷めないように（適温で）きちんと選手のもとに届けられたらいいな」という発言が取り上げられている。

「復興五輪」に関連するイベントは、五輪開催以前にもあり、聖火リレーなどでも福

島が出発地となるなど、関連の出来事は開催前のほうが多かったかもしれない。しかし、福島あづま球場にせよ、宮城スタジアムにせよ、第IX章で示したように、紆余曲折ありながら実施まで漕ぎつけた経緯もあったにも関わらず、いざ競技が始まってみると、「復興五輪」の文字がニュースのタイトルからはすっかり消え去っていくのであった。

7.2 池江璃花子選手はどう伝えられたか

池江璃花子選手（以下、池江選手）は、リオ五輪出場後の2019年に白血病にと診断されたことを公表した。療養・闘病中の2019年には、一旦は五輪出場を断念していたが、2021年には出場が内定した。病を克服して五輪に立ち向かう姿は、コロナ禍に苦しむ人々の勇気象徴、あるいは東京五輪の「多様性と調和」の理念を体現する選手として注目を集めたといってもよいだろう。

池江選手の出場記録は、「400メートルリレー」（7/24、結果=5位）と、「混合400メートルメドレーリレー」（7/29、結果=6位）、「400メートルメドレーリレー」（7/30、結果=予選通過、8/1、決勝=8位）となっている。

この池江選手が、調査期間中にどのようにニュース番組で報じられたのかを整理したのが、図表VIII-22である。日本における期待される選手として、7月23日（金）の開会式前までに6本のニュースが、また競技が開始されると競技結果に関するニュースが7本、報道されている。

7.2.1 開会式までの池江璃花子選手に関する報道

池江選手は、開会式前の2021年7月19日（月）に記者会見を開いており、「ニュース7」以外の各番組でその模様が伝えられている。

「zero」は、池江選手の出場予定やオンラインでの会見の内容（チームでの目標達成について、五輪出場が自身の運命であることや必然との言葉、抱負）を伝えた。

「23」は、オンラインでの会見の内容（五輪出場が自身の運命であることや必然との言葉、抱負）の間に、しばしば公開練習の様態を挿入して、ドキュメント風に編集して伝えた。また、日本記録を更新し、力を付けてきたことなど業績や能力について触れ、さらに繰り返しオンラインでの会見の内容を放映した。ニュースの終わりには、スタジオで「かえってきて素晴らしい 力を出してほしい」とキャスターが述べている。

「α」は、25秒と短かったが、2度目のオリンピック出場であることや、オンラインでの会見の内容（現在の状況、五輪出場が自身の運命であることや必然との言葉、抱負）を伝えた。

「報ステ」は、30秒とやはりと短い時間であったが、出場予定やオンラインでの会見の内容（現在の状況、五輪出場が自身の運命であることや必然との言葉）を伝えた。

共通するのは、「五輪出場が自身の運命であることや必然との言葉」であった。

図表Ⅷ-22：池江璃花子選手に関する報道の比較

7月21日（水）

番組名	番組内 放送順位	ニュース 時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
2 zero	11	45 (45)	【タイトルテロップなし】	1)池江璃花子 東京五輪出場は「自分の運命」
3 23	17	131 (131)	競泳 池江璃花子 2度目の五輪へ 今の思い	1)「自分の運命」 池江璃花子レースまで3日
4 α	2	411 (25)	【タイトルテロップなし】	1)エース上野13年ぶりの金へ 日本×オーストラリア 2)好投エースに応え一発攻撃 日本×オーストラリア 3)エースが救ったなでしこの窮地 日本×カナダ 4)日本は初戦ドローアメリカは… 女子サッカー 5)水谷&伊藤ペア打倒中国へ 東京五輪開幕まであと2日 6)萩野公介 3大会連続メダル獲得 東京五輪開幕まであと2日 7)池江璃花子“運命”の舞台へ 東京五輪開幕まであと2日 8)まさかの落下も「よかった」？ 東京五輪開幕まであと2日 9)指揮官も期待！23歳のエース 東京五輪開幕まであと2日 10)居残りて体をいじめる最年長 東京五輪開幕まであと2日 11)2大会連続メダルへ準備万全 東京五輪開幕まであと2日
5 報ステ	12	906 (30)	【タイトルテロップなし】	1)13年ぶり金メダルへの初戦 ソフトボール東京五輪 2)なでしこ 初戦は強豪カナダ サッカー女子東京五輪 3)なでしこジャパン 初戦は引き分け サッカー女子東京五輪 4)なでしこ 次はイギリス戦 サッカー女子東京五輪 5)なでしこジャパン 初戦は引き分け サッカー女子東京五輪 6)主将として挑む3度目の五輪 内田@【吉田麻也】 7)日本の初戦は あす南アフリカ戦 8)池江璃花子 オリンピックへの想い

7月23日（金）

2 zero	28	33 (33)	*絶好調* 池江璃花子(21) リレーチームで・・・	1)2度目の五輪 池江(21)リレーで決勝進出は
5 報ステ	12	918 (56)	【タイトルテロップなし】	1)1年越し 東京オリンピック 開会式 2)内田注目 競泳 池江璃花子(21) 東京五輪 3)最強ライバルの先に輝く金メダル 柔道女子48kg級 渡名喜風南 4)最強パートナーと歩む金メダルへの道 柔道男子50kg級 高藤直寿

7月29日（木）

2 zero	12	128		新着 新種目混合リレー池江がアンカー
4 α	5	314 (66)	バトミントン&競泳 重圧を背負い流した涙	1)"フクヒロ"世界ランク1位が涙の敗退 バトミントン女子ダブルス準々決勝 2)"ナガマツ"壮絶な戦いに涙 バトミントン女子ダブルス準々決勝 3)"ソノカム"集大成の夢舞台 バトミントン男子ダブルス準々決勝 4)"エンワタ"10歳差ペアの絆 バトミントン男子ダブルス準々決勝 5)今大会初の決勝へ納得のレース 男子200m個人メドレー 6)苦悩を乗り越え込み上げた思い 男子200m個人メドレー 7)池江 五輪2レース目は新種目 混合400mメドレーリレー
5 報ステ	8	1396 (58)	【タイトルテロップなし】	1)日本女子シングルス初の快挙へ 卓球 伊藤美誠 東京五輪 2)日本女子シングルス 史上初のメダル 卓球 伊藤美誠 東京五輪 3)ウルフ アロン"井上康生"以来の金メダル 柔道男子100キロ級 東京五輪 4)濱田尚里"世界最強の寝技"で金メダル 柔道女子78キロ級 東京五輪 5)日本柔道 6日連続の金メダル 東京五輪 6)日本松山英樹 初陣 ゴルフ男子 東京五輪 7)八村&渡邊ら日本代表 初勝利は バスケットボール男子 東京五輪 8)錦織 圭VS世界ランク1位 テニス男子 東京五輪 9)リオ銅メダル奥原 連続メダルを目指して バドミントン女子 東京五輪 10)決勝進出へ 池江が追い上げる 競泳 東京五輪 11)崖っぷちの瀬戸 三度目の正直は？ 競泳 東京五輪 12)萩野公介 ライバル瀬戸と決勝へ 競泳 東京五輪

7月30日（金）

番組名	番組内 放送順位	ニュース 時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
2 zero	17	59 (59)	【タイトルテロップなし】	1)速報 競泳池江 メドレーリレーで決勝へ
4 α	4	440 (52)	マスターズ王者の力 松山英樹 異次元プレーで 優勝争いへ！	1)松山 猛チャージ！時折笑顔も… ゴルフ男子 第2ラウンド 2)なでしこ 優勝候補スウェーデンと大一番 サッカー女子 準々決勝 3)今年3度目の日本新で49年ぶり快挙 男子3000m障害 予選 三浦龍司 4)中距離界の新星 自己ベストも… 女子5000m 予算 田中希実 5)'19 世界女王・森 涙の予選敗退 トランポリン 女子 6)予選突破をかけ世界2位との一戦 バレーボール男子 日本vsポーランド 7)4大会連続の決勝に「幸せ」 男子200m背泳ぎ 8)池江 今大会最後の種目で決勝へ 女子400mメドレーリレー 予選

8月1日（日）

1 ニュース7	6	194 (194)	池江選手 病乗り越え 「幸せな舞台」	1)東京オリンピック 競泳 女子400mメドレーリレー 困難を乗り越え決勝の舞台 池江璃花子"すごく幸せ" 2)東京オリンピック 競泳 女子400mメドレーリレー 負けん気の強さで乗り越え "努力は必ず報われる" 3)東京オリンピック 競泳 女子400mメドレーリレー 困難を乗り越え決勝の舞台 池江璃花子"すごく幸せ"
---------	---	--------------	-----------------------	---

8月9日（月）

5 報ステ	10	683 (130)	【タイトルテロップなし】	1)2人同時金メダル“ギブス”に込めた思い 走り高跳び フランスG.タンベリ 東京五輪 2)ライバル池江璃花子との“特別な再会” 競泳 スウェーデン サラ・ショーストロム 東京五輪 3)“約束の舞台”兄の思いを背負って 8MXレーシング オーストラリア 榊原爽 東京五輪 4)南スーダン旗手 母国に届けた雄姿 陸上 南スーダン アブラハム・ゲム 東京五輪 5)伝えきれなかった東京五輪
-------	----	--------------	--------------	--

開会式が開かれる 2021 年 7 月 23 日（金）には、「報ステ」と「zero」が池江選手に関するニュースを伝えている。

「報ステ」は、スポーツニュースの最初のニュースで「開会式」の様子を伝えているが、その直後に伝えられたのが池江選手のニュースであった。すでに一部の競技については開始されているとはいえ、五輪のシンボルである開会式の模様の直後に池江選手について扱っており、多様性のメッセージを伝えようとする開会式の報道からの文脈をふまえるなら、池江選手が東京五輪のシンボルの 1 つとして表象されていることは明白である。

報道の仕方であるが、キャスターや解説者が特設会場で会話をしながら、翌日（7/24）の予選を前にした池江選手を紹介するものであった。スポーツキャスターの内田篤人氏は、注目競技として競泳を挙げ、「今日を迎えるまで大変なことを乗り越えてきたと思うが、過度に期待し過ぎず終わった後に笑顔が見れるといい」と述べた。また同じくスポーツキャスターの寺川綾氏は、「自ら掴んだ五輪の切符で・・・彼女らしく楽しんでほしい」と述べている。

同日の「zero」は、キャスターやアナウンサーが国立競技場前で会話をしながら、週末の注目として競泳や池江選手を挙げて紹介した。これまで池江選手は 50m リレーで

日本記録を連発しているとして注目とした。アナウンサーは「1年前にプールに戻ったばかりだが、どんどんタイム上げている」と述べている。キャスターは「ベストを出し切っていただきたい」と述べ、主に競技の業績に基づいて池江選手について伝えていた。

7.2.3 競技開始後の池江璃花子選手に関する報道

ただ、7月24日（土）の予選400メートルリレーは、週末に競技が行われ、それぞれ番組の放送がなく、池江選手に関するニュースは伝えられていなかった。

2021年7月29日（木）に行われた「混合400メートルメドレーリレー、結果=6位」については、「zero」と「α」「報ステ」が伝えている。

「zero」は、アナウンサーが、新種目である競泳混合のルールを説明しつつ、注目の池江選手がアンカーで臨んだことを説明した。競技ダイジェストをニュースで伝え、その後池江選手のインタビューが用いられ、競技を振り返った。

「α」は、池江選手が今大会2レース目でアンカーを務めると紹介した。全て競技ダイジェストでニュースで伝えている。ニュースの最後では、池江選手のインタビューが用いられ、競技を振り返る模様を伝えた。なお、タイトルテロップでは「重圧を背負い流した涙」とあるが、これはサブタイトルテロップ（6）の男子200m個人メドレーの萩野選手のことであり、アナウンサーも池江選手ではなく、萩野選手についての感想を述べている。

「報ステ」も競技ダイジェストを中心にニュースで伝えた。このニュースでは、「混合400メートルメドレーリレーに池江選手が出場した」というテロップが用いられている。出場選手は、複数いるが、明らかに池江選手が主語のニュースになっていることが分かる。その後池江選手のインタビューの様子が短く用いられた。なお、結果的に決勝進出は逃しているがタイトルテロップは「決勝進出へ」となっている。

次に2021年7月30日（金）の「400メートルメドレーリレー、結果=予選通過」であるが、「zero」「α」が伝えた。

「zero」は速報として、池江選手が出場、と報じた。このニュースも主語は池江選手である。内容は主に競技のダイジェストであった。

「α」は、今大会最後の種目に挑む池江里佳子、としてニュースを紹介していた。やはり競技のダイジェストを中心に流しているが、他のチームの結果待ちで予選通過が決まった瞬間の映像を用いている。この日の「α」の場合も、団体競技であっても基本的には池江選手のニュースとして競技が紹介されている。ただし、ダイジェストでは他の選手の競技シーンも取り上げられていた。

2021年8月1日（日）の「400メートルメドレーリレー決勝、結果=8位」は、競技日が日曜だったためか、「ニュース7」のみが報じている。

「ニュース7」のアナウンサーは、病を乗り越えた池江選手が五輪に出場し、幸せな舞台だったと振り返ったことを伝えている。このニュースでもやはり競技の主語は池江

選手となっていた。競技終了後の映像では、チームメイトに声を掛けられて涙ぐむ姿を映し出された。その後に池江選手のインタビュー（「一度は諦めかけた東京五輪だったが・・・すごく幸せ」）が流れた。さらに、白血病と診断された一昨年から復帰後にかけてのドキュメント映像が用いられた。映像は、病院内の療養の様子や復帰後の練習の様子、東京五輪出場決定の瞬間やその後の涙ながらのインタビュー（「つらくてもしんどくても努力は必ず報われるんだな」）、白血病の治療を続けてきた子どもへの取材映像が用いられている。

その後に、決勝の模様を池江選手を中心に一部ダイジェストで伝え、池江選手の声や白血病の治療を続けてきた子どもの声を挿入しつつ、最後は池江選手のインタビューの言葉「自分が未来を変えていくものだと思う」や「1日1日を悔いのないようにトレーニングして自信をつけて次の五輪に立てるようにしたい」という言葉でニュースは締めくくられた。

東京五輪終幕後の2021年8月9日（月）には、「報ステ」が、「伝えきれなかった東京五輪」として、「世界からのありがとう」というテーマ4つのドキュメントを放映した。その中で、過去に骨折で負傷した選手、兄弟が競技で怪我をして東京五輪に出場できなかった母親が日本人のオーストラリアの選手、群馬県で支援を受ける紛争による貧困で苦しむ南スーダンの選手のドキュメントとともに、池江選手のドキュメントも伝えられている。池江選手のドキュメントは、スウェーデンのライバル選手との再会のストーリーであった。闘病中の池江選手に世界選手権の場からエールを送ったスウェーデン選手であるが、その後に骨折をしてしまう。その選手に池江がエールを送り返すというストーリーである。

これらの報道に特徴的なのは、団体競技でありながら、ほぼ全てのニュースで、池江選手が主語として伝えられ、明らかに池江選手を主役として位置付ける報道の仕方であろう。これだけ東京五輪のシンボルとして注目を浴びながらも、五輪競技が始まると、その他の数多くの競技種目の結果を伝えるダイジェストのなかで霧消しており、開幕前の注目に比べて競技結果の報道は非常に少なかったのではなかろうか。メダルを獲得せず、独占インタビュー等もなかったこともあるが、五輪開催前に既にレジェンドになっていた物語に基づいて報じたのは「ニュース7」だけであった。

7.3 大坂なおみ選手はどう伝えられたか

ハイチ系アメリカ人の父を持ち、2019年までに日米両国の国籍を持ち合わせていた大坂なおみ選手（以下、大坂選手）は、池江選手とほぼ同時期に東京五輪への出場が決まった。人種的・民族的多様性に関しては、やや均質性の高い社会を構成していると考えられている日本において、ブラック・ライブズ・マターに賛同した意匠のあるマスクを着用するなど黒人差別撤廃のための運動で注目を集めていた。テニス以外での社会活動や言動を通じて、日本社会のダイバーシティをめぐる変化を大坂選手が体現している

ことについては言を俟たないであろう。東京五輪では開会式の聖火ランナーの最終ランナーを務めたことも、世界に日本社会の多様性のあり方を訴えかけた出来事として後世に伝えられる出来事であったかと思われる。本節では、この大坂選手に関する報道についてみていく。

なお、大坂選手の東京五輪で出場は、「7/25（日）：対中国 結果＝勝」、「7/26（月）：対スイス、結果＝勝」「7/27（火）：対チェコ、結果＝敗」のようになっている。

2021年7月19日（月）には、男子テニスの錦織選手との練習を公開したことで、「ニュース7」以外の全ての民放番組がこの模様を取り上げた。

その伝え方は、ほぼ全てのニュースが同様に、それぞれのニュースが主に注目したのは、2か月ぶり大会出場というテニスの状況もそうであるが、「カラフルなドレッドヘアへ注目（zero）」や「ド派手な髪型、赤いドレッドヘアに注目（「α）」「カラフルなドレッドヘアがひととき目を引く（「報ステ）」「赤の編み込み”、”気合を感じる”（「23）」といった髪型についてで、外見上の特徴を一斉に報じていた。また、暑さ対策が必要なほどの熱波の元での練習であったこともあるが、休憩中に「スイカ」を食べている、といったことを「zero」「報ステ」「23」が報じた。このスイカが「熱中症対策」であることを解説を交えて伝えたのは「23」だけである。なお、この公開練習では、大坂選手が参加したことが主語として伝えられており、錦織選手については「錦織選手も」練習に参加、と伝えられている。

7月22日（木）は、「報ステ」が試合の組み合わせが決まったことを伝えている。特に特徴は見当たらないニュースであったが、解説者が、「ナオミプレイ」が出たら金メダル、と発言している。

開会式が行われた7月23日（金）には「zero」と「23」が大坂選手が最終ランナーとなったことを伝えている。夜の11時過ぎの点火であったため、「ニュース7」「報ステ」は放送時間の観点から報道がなく、「α」はこの日は放送がなかった。

「zero」は、大坂選手が最終ランナーとして点火するシーンのダイジェストを放映した。この際にもアナウンサーが大坂選手の髪型に触れ、「髪型は聖火に合わせたのかもしれない」と述べた。

「23」も同様に、大坂選手が最終ランナーとして点火したことをダイジェストで伝えているが、「若い力」「未来につながる感じ」といったコメントが述べられた。

「報ステ」は、開会式後の放送は、翌週となり、大坂選手の開会式での聖火点火の様相に関するニュースはなかった。7月26日（月）は2回戦となる「7/25（日）：対中国 結果＝勝」を伝えた。これも短い競技のダイジェストのみで、競技後のインタビューの様相も非常に短かった。ただ、「応援ありがとうございます おやすみ・・・じゃない・・・また」、と日本語の誤りを直そうとした部分を放送している。

なお、競技のタイミングで日曜に行われた1回戦の競技の様相はどの番組でも放映されていない。

図表Ⅷ-23：大坂なおみ選手に関する報道の比較

7月19日（月）

番組名	番組内 放送順位	ニュース 時間	タイトルテロップ	サブタイトルテロップ
2 zero	9	35 (35)	【タイトルテロップなし】	1)ドッドヘア 大坂なおみ五輪会場で初練習

7月20日（火）

3 23	10	164 (164)	メダル獲得へ 大坂&錦織 本番会場で調整	1)開幕3日前 今夜も各競技の最新情報 2)テニス男女 大坂&錦織 本番会場で調整
4 α	4	76 (76)	テニス 大坂なおみ(23) ド派手な髪型で登場	1)大坂なおみ(23) 決勝の舞台で実戦練習 東京五輪 開幕まであと3日 2)大先輩に緊張の23歳・伊藤大海 東京五輪 開幕まであと3日
5 報ステ	15	44 (44)	【タイトルテロップなし】	1)NEW大坂なおみ 本番コートで… テニス 東京五輪

7月22日（木）

5 報ステ	14	879 (16)	【タイトルテロップなし】	1)上野由岐子 (39) 誕生日の熱戦 ソフトボール 東京五輪 2)悲願のメダルへ 大事な初戦 サッカー男子 東京五輪 3)悲願のメダルへ白星発進 サッカー男子 東京五輪 4)内田解説 久保健英の打開力 サッカー男子 東京五輪 5)次は25日 メキシコ戦 サッカー男子 東京五輪 6)世界最高峰での学びを日本に還元 バレーボール男子 石川祐希(25) 東京五輪 7)最強 日本初のメダル目指して バスケットボール男子 東京五輪 8)大坂なおみ&錦織 圭 対戦相手は？テニス 東京五輪
-------	----	-------------	--------------	---

7月23日（金）

2 zero	4	44 (44)	速報 最終聖火ランナー 大坂なおみ選手	1)速報 最終聖火ランナー 大坂なおみ選手
3 23	8	321 (31)	大会1日目 ポート&アーチェ リー日本奮闘!	1)速報 最終聖火ランナーは大坂なおみ 2)ついに開幕! 高橋尚子さん出演 開会式秘話 3)ポート 荒川龍太が日本人初の快挙! 4)アーチェリー 男女の若手が(日本の国旗)けん引!

7月25日（日）

1 ニュース7	4	140 (41)	ソフトボール 日本 カナダに サヨナラ勝ち 銀以上確定	1)東京オリンピック 3日目 カナダにサヨナラ勝ち ソフトボール銀以上が確定 2)東京オリンピック 3日目 テニス 大坂なおみ選手 ストレート勝ちで2回戦へ 3)東京オリンピック 3日目 バドミントン 桃田賢斗選手 初戦はストレート勝ち
---------	---	-------------	--------------------------------	--

7月26日（月）

5 報ステ	12	446 (69)	【タイトルテロップなし】	1)大坂なおみ 得意のフォアが炸裂 テニス女子 東京五輪 2)13年ぶり金メダルへ 宿敵アメリカと前哨戦 ソフトボール 東京五輪 3)予選突破かけ 馬瓜がパワー全開 バスケットボール3×3女子 東京五輪 4)羽根田 2大会連続メダルに挑む カヌー男子 東京五輪 5)史上最強日本vs世界2位 バスケットボール男子 東京五輪
-------	----	-------------	--------------	---

7月27日（火）

3 23	5	491 (41)	【タイトルテロップなし】	1)サーフィン 大技決めた!五十嵐カノア 銀メダル 2)サーフィン 20歳 都筑有夢路は銅メダル獲得! 3)ウェイトリフティング 安藤美希子 歓喜と涙の銅メダル 4)卓球 伊藤美誠2冠へ快勝!張本は… 5)ハンドボール 日本女子 45年ぶり五輪勝利! 6)飛び込み 荒井・板橋ペアが6位入賞 7)速報 体操日本女子団体 5位入賞 8)速報 バスケ3×3 準決勝進出は? 9)テニス 大坂なおみ まさかの敗退
4 α	4	581 (84)	東京オリンピック 顔をのぞかせた五輪の魔物	1)大阪 格下相手にまさかの… テニス女子シングルス 3回戦 2)瀬戸に異変「悔しさを通り越して…」 競泳 男子200mバタフライ 準決勝 3)田代 まさかの2回戦敗退 柔道女子 63キロ級 4)日本初メダルかけたラスト1本 女子シンクロ高飛び込み 決勝 5)日本のエース張本 波乱の初五輪 卓球男子シングルス 4回戦 6)なでしこ チリに勝利 決勝T進出 田中美南が決勝弾 7)初戦で格上フランスと大接戦 女子バスケットボール 8)「おりひめジャパン」45年ぶりの勝利 ハンドボール 女子 9)岡澤 金メダリストと社絶な打ち合い 男子ウエルトアー級 2回戦 10)水球 初勝利かけ王国ハンガリーに挑む

7月27日（火）の敗退した3回戦の様子は「α」「23」が報じた。「zero」「報ステ」は放送がなく、「ニュース7」は報じなかった。

「α」は、「多くのメダリストが誕生していますが、こちらの選手にはまさかの結果」と伝えている。ダイジェスト終了後は、インタビューの様子を伝えているが、英語でプレイと大会を振り返る模様であった。「23」は、解説者がダイジェスト映像を見ながら解説し、インタビューも解説者が代読する形式であった。

大会期間中、夜のニュース番組で大坂選手がタイトルテロップに用いられることはこれ以降はなかった。五輪の前にメディアへの取材拒否が話題となったこともある大坂選手ではあるが、3回戦で敗退したとはいえ、競技結果のニュース時間は短かった。大会直前のニュースでは容姿などプライベートなことに注目され、試合後のたどたどしい日本語でのインタビューの回答を取って伝えるニュースからは、多様性を体現した開会式の最終聖火ランナーを伝えるまなざしが欠けている報道の在り方が透けて見える。

8 おわりに

本章では、事例研究として、五輪開催期間（前後3日を含む）の夜のニュース番組が伝えた具体的なニュースを取り上げて比較検討してきた。記事の分析にあたって、テーマや記事内容によって分析方法の異なる質的研究で、あくまで事例研究であり、一般化された結論があるわけではないが、それぞれの記事ごとに傾向や知見などが示してあるので参照してほしい。

分析結果から、番組ごとのニュース報道の仕方や姿勢には、論評や出来事の背景に関する推論の仕方、取材相手および取り上げる取材内容、ニュースの構成、映像編集の仕方などで違いが認められ、またメダルに関するニュースの分析からはニュース内容の多様性が確認できた。また、取り上げるニュースに関しては、ニュースバリューによるだけでなく、競技スケジュールと放送曜日の関係や、その他の時間帯における競技の実況中継など番組編成との関連もあることが示された。

また、全体的に競技を伝える祝祭的な雰囲気の記事のなかで、五輪をめぐる社会的な背景に関するネガティブなニュース報道は減少していくことが明らかになり、本研究会でこれまで示してきた過去の五輪報道の量的研究での発見を補強する結果となっている。しかし、こうした傾向は、ネガティブなニュースだけではなく、五輪開催を通じて東京が舞台となった国際関係や、東京五輪のコンセプトや理念に関する報道でも同様の傾向であった。ステレオタイプによる報道も散見された。

事例研究ではあるが、こうした傾向から、「TOKYO 2020」というやや特殊な社会的状況のもとで行われたイベントを前にしても、夜のニュース番組は従来の報道枠組みのなかで出来事を伝えることに終始していたとはいえないだろうか。スポーツを伝える夜のニュース番組というもう1つのスタジアムもまた”無観客”だったのかもしれない。

参考文献

中正樹、日吉昭彦、小林直美（2023）「東京五輪開催期間における日本のテレビニュース報道 -報道が可視化したもの／不可視化したもの-」『ジャーナリズム&メディア』第20号

NHK ウェブサイト（2021）「五輪・パラ 東京大会全体の新型コロナ感染は 863 人」（2023 年 1 月 27 日取得、

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210908/k10013249701000.html>

佐々木孝夫（2000）「1999 年東京都知事選挙における選挙報道の内容分析」『平成法政研究』第 5 巻第 1 号

注

- 1) 例えば、「選手村での飲酒騒動に関する事件」であれば、キーワードを「選手村」「飲酒」「酒」「騒動」「騒ぐ」などとし、同一の出来事を伝えるニュースをコーディング・シートから検索して抽出する。また、検索結果のニュースの日付などもふまえて、この出来事のニュースであることを推測できるようなニュースや、この出来事のニュースであるかどうかをコーディング・シートを参照しただけでは分からない場合は、ニュース映像を確認した上で抽出した。なお、ある番組のニュースでは「タイトルテロップ」にキーワードが含まれているが、別の番組のニュースでは「サブタイトルテロップ」に含まれているケースもある。このようなケースでも、分析の単位は、本報告書の第 III 章で示したニュース単位である。ただし、実際には報道されていても、「タイトルテロップ」にも「サブタイトルテロップ」にも関連キーワードが含まれていない場合もある。たとえば、オープニングで話題にしたり、ゲストが言及したりしていても、テロップに関連キーワードが含まれていないケースなども考えられるが、こうした報道は本章では分析は行っていない。
- 2) 「ニュース時間」は、第 3 章で示されているように、タイトルテロップで区切られたニュースを単位とした放映時間であるが、このニュースにはさらにサブタイトルテロップで区切られる複数のニュースが含まれることがある。例えば図表 VIII-7 の「23」のニュースのように、サブタイトルテロップでは「選手の新型コロナ感染」が伝えられているニュースが含まれていることが分かるが、タイトルテロップで区切られたニュース中には「五輪の盛り上がり」をテーマとした別のニュースも含まれている。こうしたケースでは、当該テーマのニュース時間のみを別途測定した。番組間のニュースを比較する表においては、「ニュース時間」について、表中の上段には「タイトルテロップで区切られたニュースを単位とした放映時間」を、また表中下段には（ ）で区切って当該テーマのニュース時間を記載した。
- 3) 本稿ではニュース内で取材を受けた人物がコメント等をした際の内容を取り上げているが、「」で区切られた発言は、筆者が要約した発言の概要となっている。また、

複数のコメントを取り上げる際にも、「“ ”」で括って示しているが、これも同様である。

- 4) 佐々木 (佐々木 2000) によると「エグザンプラー (Exemplar) とは、個人的意見 (街頭インタビューや識者意見) をそのまま具体的に提示したものをいう」
- 5) こうした報道の傾向は「選手村」を伝えるニュースも同様であった。大会直前のニュースでは、選手村での入村のニュース (7/19 zero α) に加え、コロナ感染やクラスター発生に関するニュース (7/19 23 7/20 ニュース7 報ステ 7/23 報ステ) があった。また、選手村に滞在しないチームのニュース (7/21 報ステ 7/22 23) のほか、選手村のネガティブな評判に関するニュース (7/21 zero 7/23 23) が続く。開会式の際には、選手村の様子、という異例な開催状況のなかでの選手の日常を伝えようとするニュース (7/23 23) もあった。一方、五輪が開始されてからは、段ボールのベッドを選手が壊す様子を SNS で投稿したことが明らかになり選手が謝罪するというニュース (7/29 zero 23) や、選手村で起きた飲酒騒ぎ (8/3 報ステ zero) があった。競技が開始されると、話題の選手村は、いい部分も悪い部分も報道が激減している。